AgileWorks R3

Microsoft SharePoint
連携設定ガイド

R3.3 第 1 版(2026/07/15)

ATLED

目次／索引

1. 始めに 4
1.1. 本書の目的 4
1.2. 対象読者 4
1.3. 対応製品、バージョン 4
1.4. 対応 AgileWorks バージョン、オプション 4
1.5. 他社登録商標について 4
2. 連携概要 5
2.1. 実現できる機能 5
2.2. 動作イメージ 6
2.3. 使用できる Web パーツ 7
2.4. 前提条件 8
SharePoint Server の認証方式について 8
SharePoint のアカウント形式とユーザー引き当てについて 8
プロトコルの一致について 8
2.5. 補足事項 9
連携時のパスワード認証について 9
連携動作の制限について 9
Microsoft 365／SharePoint のグループと AgileWorks の組織について 9
2.6. ガジェット利用時のユニークログインユーザー数の考え方 9
3. 連携設定の流れ 10
3.1. 設定フロー 10
4. 引当情報の確認とユーザー属性情報の設定 11
5. AgileWorks ログイン認証の設定 13
5.1. ガジェット用ログイン認証の設定 14
6. Microsoft 365／SharePoint Online の設定 16
6.1. アプリカタログの作成 16
6.2. アプリの登録 19
アプリパッケージの準備 19
アプリのアップロード 19
6.3. サイトコンテンツの作成 21
サイトコンテンツの作成 21
アドインの追加 22
Web パーツの配置 23
Web パーツの配置：モダン表示の場合 23
Web パーツの配置：クラシック表示の場合 25
7. SharePoint Server / Foundation の設定 29
7.1. ソリューションの登録とアクティブ化 29
ソリューションパッケージの準備 29
ソリューションパッケージのアップロードとアクティブ化 29
Web パーツの確認 33
7.2. サイトコンテンツの作成 35
サイトコンテンツの作成 35
Web パーツの配置 37
8. Web パーツの設定と動作確認 41
8.1. Web パーツのプロパティ設定 41
8.2. 表示の確認とブラウザの設定 44
9. Web パーツのアップデート 45
9.1. アプリのアップデート 45
アプリの更新 45
9.2. ソリューションパッケージのアップデート 49
ソリューションの非アクティブ化 49
ソリューションの更新と再アクティブ化 51
9.3. 更新の確認 53
10. 応用設定 54
10.1. 既定のログインを停止する 54
11. トラブルシューティング 55
11.1. 認証情報のトレース 55
認証成功時のデバッグログ 56
デバッグログが出力されない 56
デバッグログに「NOT FOUND」と出力される 56

◆ 改版履歴

版数	年月日	改版内容
第 1 版	2026 年 07 月 15 日	第 1 版作成

1. 始めに

1.1. 本書の目的

本書は、Microsoft 365（SharePoint Online）、Microsoft SharePoint Server のサイトから AgileWorks へシングルサインオン連携（以下、SSO 連携と略）するための設定手順を説明します。

1.2. 対象読者

本書は、AgileWorks のログイン認証機能に関する基本知識を持ち、SharePoint の管理サイト設定、及びサイトの作成を行う事が可能な方を対象としています。
ログイン認証に関する詳細はガイド資料「Aw02-ログイン認証ガイド」を参照してください。

1.3. 対応製品、バージョン

以下の製品、バージョンのチームサイト（クラシック表示、モダン表示）に対応しています。

- Microsoft 365
- Microsoft SharePoint Online
- Microsoft SharePoint Server 2013 Standard / Enterprise
- Microsoft SharePoint Foundation 2013
- Microsoft SharePoint Server 2016 Standard / Enterprise
- Microsoft SharePoint Server 2019 Standard / Enterprise

※SharePoint サイトのモバイル ビューには対応しておりません。

1.4. 対応 AgileWorks バージョン、オプション

本書で説明する連携機能を利用するには、「SharePoint 連携」オプションが必要です。
詳細につきましては、AgileWorks 販売代理店までお問い合わせください。

1.5. 他社登録商標について

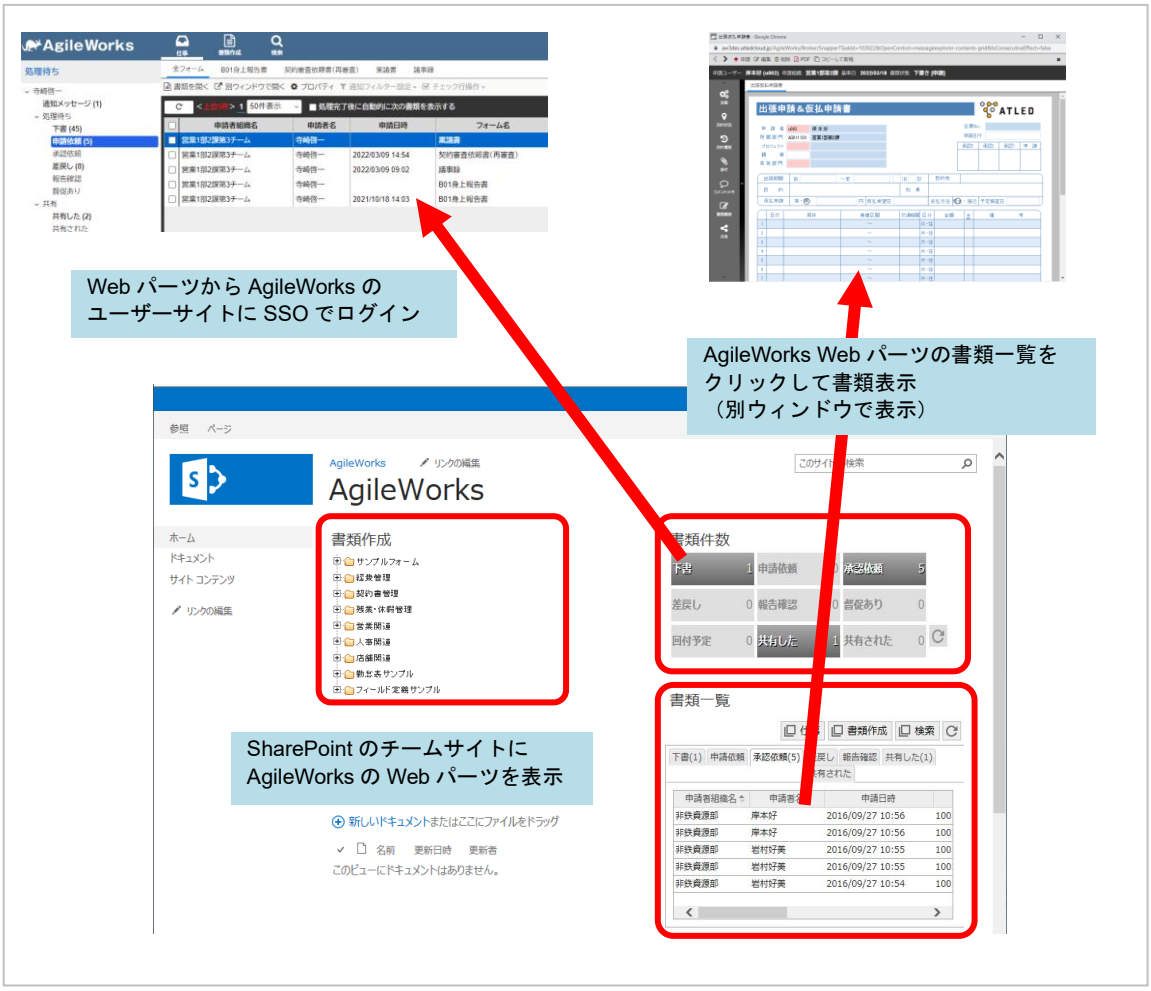
AgileWorks、アジャイルワークスの名称およびロゴは株式会社エイトレッドの商標または登録商標です。
Microsoft、MS-DOS、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する会社の商標または登録商標です。本書では、©、®、(TM) の表示を省略しています。ご了承ください。

2. 連携概要

2.1. 実現できる機能

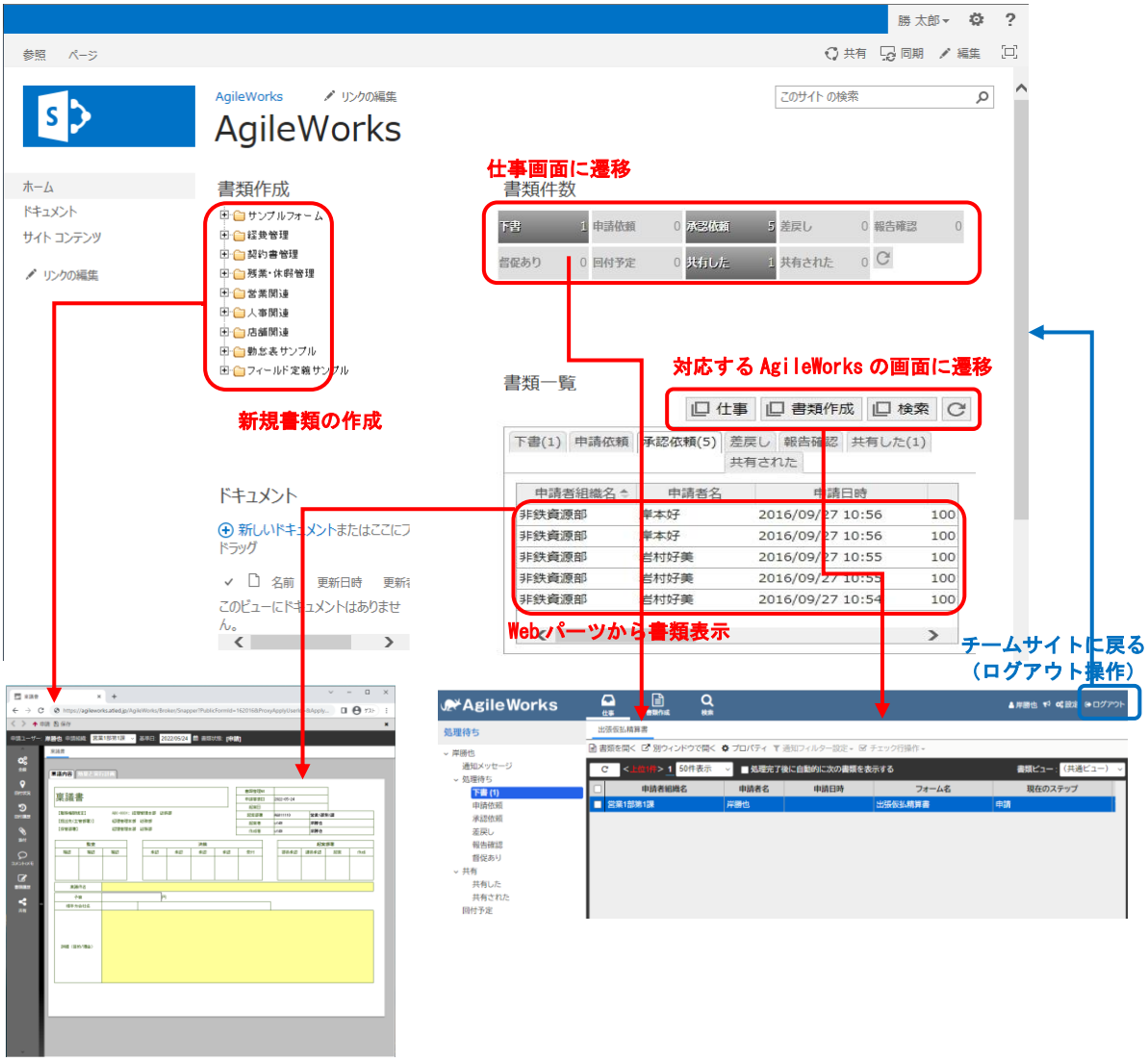
AgileWorks と Microsoft SharePoint のチームサイト機能との SSO 連携を行なうことで、
SharePoint サイトに、AgileWorks の情報を表示する Web パーツを配置することができます。

配置できる Web パーツは、書類作成、書類件数、書類一覧となり、Web パーツを経由して AgileWorks の
ユーザーサイトに遷移することや、新規書類を直接作成することが可能となります。
※Web パーツを経由せずに AgileWorks のユーザーサイトに直接 SSO で遷移することは出来ません。



2.2. 動作イメージ

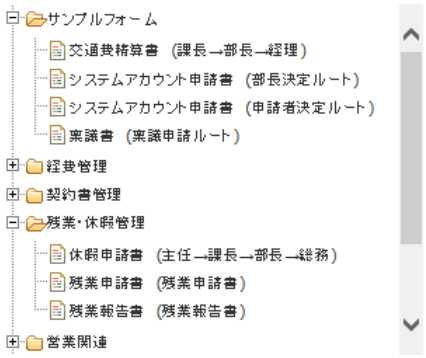
Microsoft 365 / SharePoint Server と AgileWorks の連携は、SharePoint 内に作成するサイトとの間で行います。AgileWorks から SharePoint に戻る操作は、AgileWorks 側の【ログアウト遷移先】を利用するか、ブラウザブックマークを利用します。



2.3. 使用できる Web パーツ

▼書類作成

書類の新規作成を行う Web パーツです。
ツリーを開くと提出できるフォームと回付ルールがペアで表示され、フォーム名をクリックすると入力フォームが別ウィンドウで表示されます。



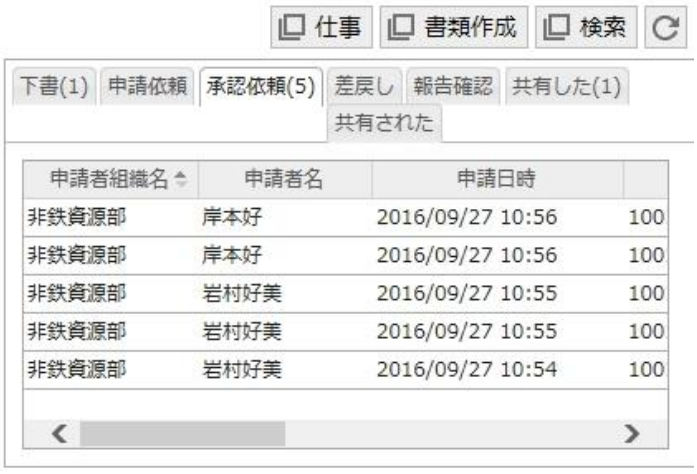
▼書類件数

ワークフロー処理が必要な書類の件数を表示する Web パーツです。
件数部をクリックすると AgileWorks の「仕事」画面に遷移しクリックした件数部の表示に対応する処理待ち一覧画面に遷移します。(「 」をクリックすると表示内容が最新の状態に更新されます)



▼書類一覧

下書き、申請依頼、承認依頼、差戻し、報告確認など、処理待ちとなっている書類一覧を表示する Web パーツです。
表示される一覧をクリックすると表示行の書類が別ウィンドウに表示されます。上部の「仕事」、「書類作成」、「検索」をクリックするとクリック箇所に対応する AgileWorks の画面に遷移します。
(「 」をクリックすると表示内容が最新の状態に更新されます)



2.4. 前提条件

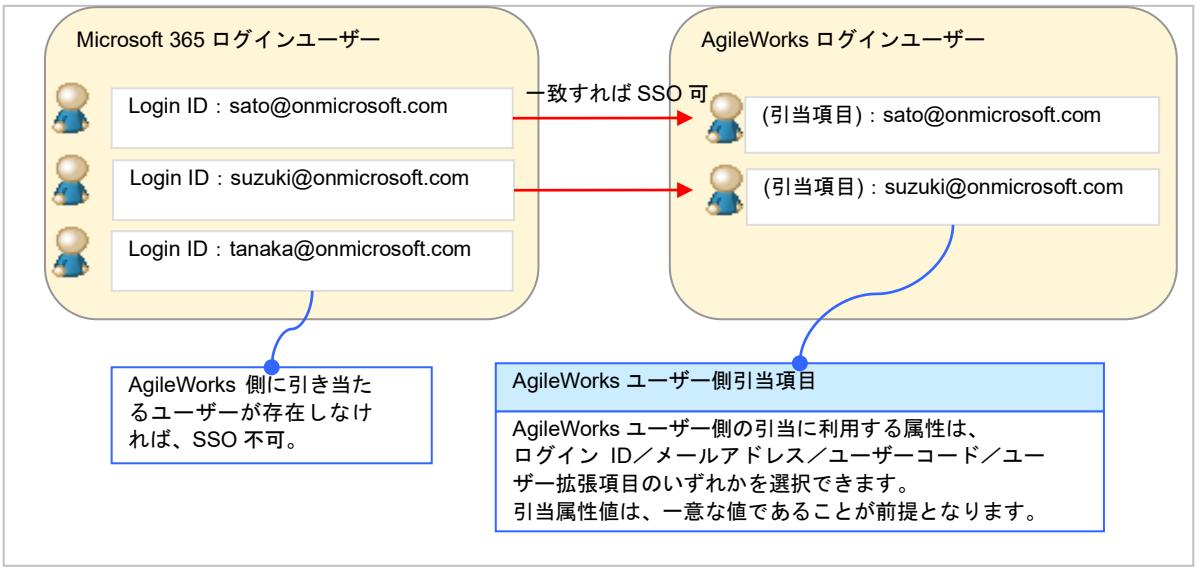
SharePoint Serverの認証方式について

SharePoint Server / SharePoint Foundation のクレーム認証方式（既定動作）のみ対応しています。
クラシック認証方式は対応していません。

SharePointのアカウント形式とユーザー引き当てについて

SharePoint から AgileWorks への連携では SharePoint のユーザー・アカウントの所定部分の値と AgileWorks のユーザー属性情報（ログイン ID／メールアドレス／ユーザーコード／ユーザー拡張項目）の値を引当用として一致させる必要があります。

ユーザーの引き当てイメージ



プロトコルの一致について

SharePoint サーバーと AgileWorks サーバーのアクセスに利用する通信プロトコル（http、https）は一致させて利用するようにしてください。
SharePoint を https、AgileWorks を http で利用する組み合わせなどの場合、
ブラウザ動作仕様により Web パーツが正常に表示されない可能性があります。

2.5. 補足事項

連携時のパスワード認証について

SharePoint チームサイトに AgileWorks を Web パーツに表示する際の連携はログイン情報の引当のみで行なわれ、登録されているユーザーパスワードを利用しての認証は行いません。
従って、SharePoint にログインする際に使用するパスワードと AgileWorks に登録されているパスワードが異なっている状態であっても引当情報が一致する場合にはログインが行なわれます。

連携動作の制限について

SharePoint と AgileWorks の連携はログイン情報の引当のみで行う為、AgileWorks サーバー内の書類情報を不正利用されないよう連携動作を制限する機能を持ちます。

- 連携元 SharePoint と AgileWorks で接続パスワードの一致を判定
- 連携元 SharePoint と AgileWorks サーバーの時刻が許容範囲であるか判定

２項目は連携動作時に暗号化キーに含め送受信し、一致しない場合は不正利用と判断し Web パーツを表示しません。

Microsoft 365／SharePointのグループとAgileWorksの組織について

Microsoft 365／SharePoint は基本的に組織構造を表す名称で利用するため、AgileWorks の組織に登録される内容に似た名称・構造になりますが、指定する情報が互いの動作に影響する事は無いため登録内容を同じ構造にする必要はありません。

AgileWorks の組織はワークフロー処理を行なう際の承認ルート決定に重要な要素になるため、AgileWorks で組織階層を作成する際にはワークフロー処理の特性を考慮しワークフロー処理に必要な階層指定となるように作成してください。
SharePoint 上での構造と異なっていても動作上の問題はありません。

2.6. ガジェット利用時のユニークログインユーザー数の考え方

ガジェットにてログイン（SSO）を行った直後は AgileWorks のライセンスにてカウントされる同時ログインユーザー数にはカウントされません。
ガジェットから「ユーザーサイト」や「書類（ドキュメントビューア）」を開いたタイミングで同時ログインユーザー数にカウントされるセッションに変化します。

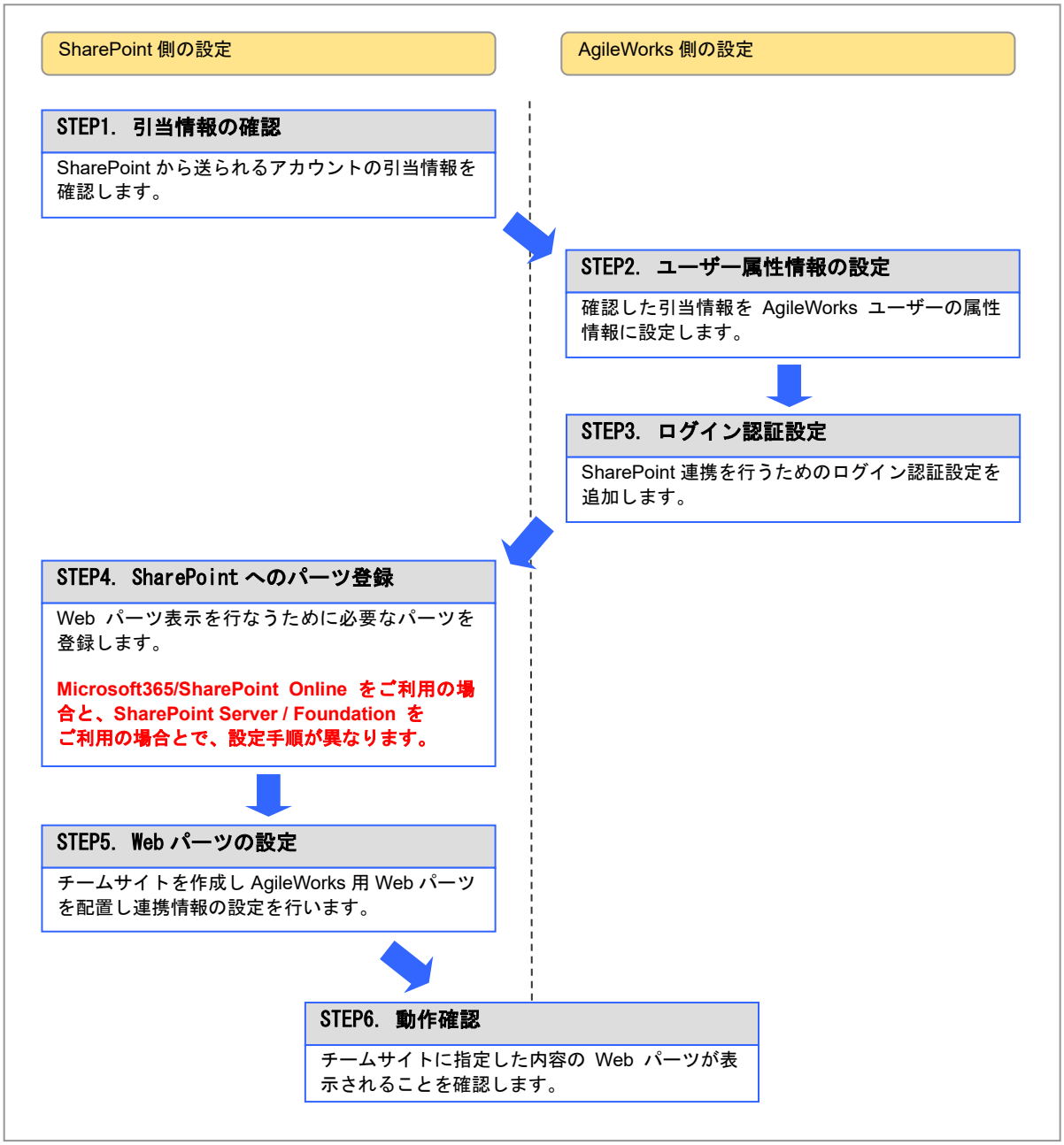
その後、ユーザーサイトや書類の操作を続けている限り、同時ログインユーザー数にカウントされ続けますが、
必要な操作（書類の申請や承認など）を終え、ガジェットのリロード、または自動リロードのみの時間が一定時間続くとそのセッションはライセンスの同時ログインユーザー数にカウントされなくなります。
※ガジェットにログインした直後と同じ扱いに戻ります。
　R3.1.1a 以降での動作です。

本動作の詳細につきましてはサポートサイトの「ガジェット利用時のセッションについて」をご参照ください。

3. 連携設定の流れ

3.1. 設定フロー

SharePoint 連携を行う際の設定の流れは以下の図の様になります。



4. 引当情報の確認とユーザー属性情報の設定

SharePoint と AgileWorks を連携させるにあたって、SharePoint 側の引当情報を確認し、
引当情報に応じた値を AgileWorks のユーザー属性情報に設定する必要があります。

1）Microsoft 365 (SharePoint Online) で引当用の情報を確認する
Microsoft 365 にログイン後、サイトに移動し「個人用設定」を開きます。



個人用設定のアカウント欄に表示されている内容を確認します。



表示されているアカウントの最後に現れる“|”以降が引当情報になります。
図の場合「i:0#.f|membership|u001@atledsp.onmicrosoft.com」であるため「u001@atledsp.onmicrosoft.com」が引当情報になります。

Microsoft 365 を AD FS による認証で利用している場合「i:05.t|adfs|u001@atledsp.onmicrosoft.com」の形式となり一部の表記が変化しますが、引当情報は同様に「u001@atledsp.onmicrosoft.com」が送信されます。
（「adfs」の部分は AD FS 認証サーバーの設定により異なる場合があります）

2）SharePoint Server / Foundation で引当用の情報を確認する
SharePoint にログイン後「個人用設定」画面を開きます。



個人用設定のアカウント欄に表示されている内容を確認します。



表示されているアカウントの最後に現れる“|”以降が引当情報になります。
図の場合「i:0#.w|win-sp2013svr¥u001」であるため「win-sp2013svr¥u001」が引当情報になります。

■　Microsoft 365 / SharePoint Online で使用する Web パーツが AgileWorks に送信する引当情報

SharePoint 利用環境	アカウント情報の形式（例）	AgileWorks 引き当て用送信情報
Microsoft 365 / SharePoint Online （Microsoft 365 認証）	i:0#.f|membership|username@contoso.com	username@contoso.com メールアドレスでの引当が一般的です
Microsoft 365 / SharePoint Online （AD FS 認証）	i:05.t|adfs|username@contoso.com ● 「adfs」部分は異なる場合があります。	username@contoso.com メールアドレスでの引当が一般的です

■　SharePoint Server / Foundation で使用する Web パーツが AgileWorks に送信する引当情報

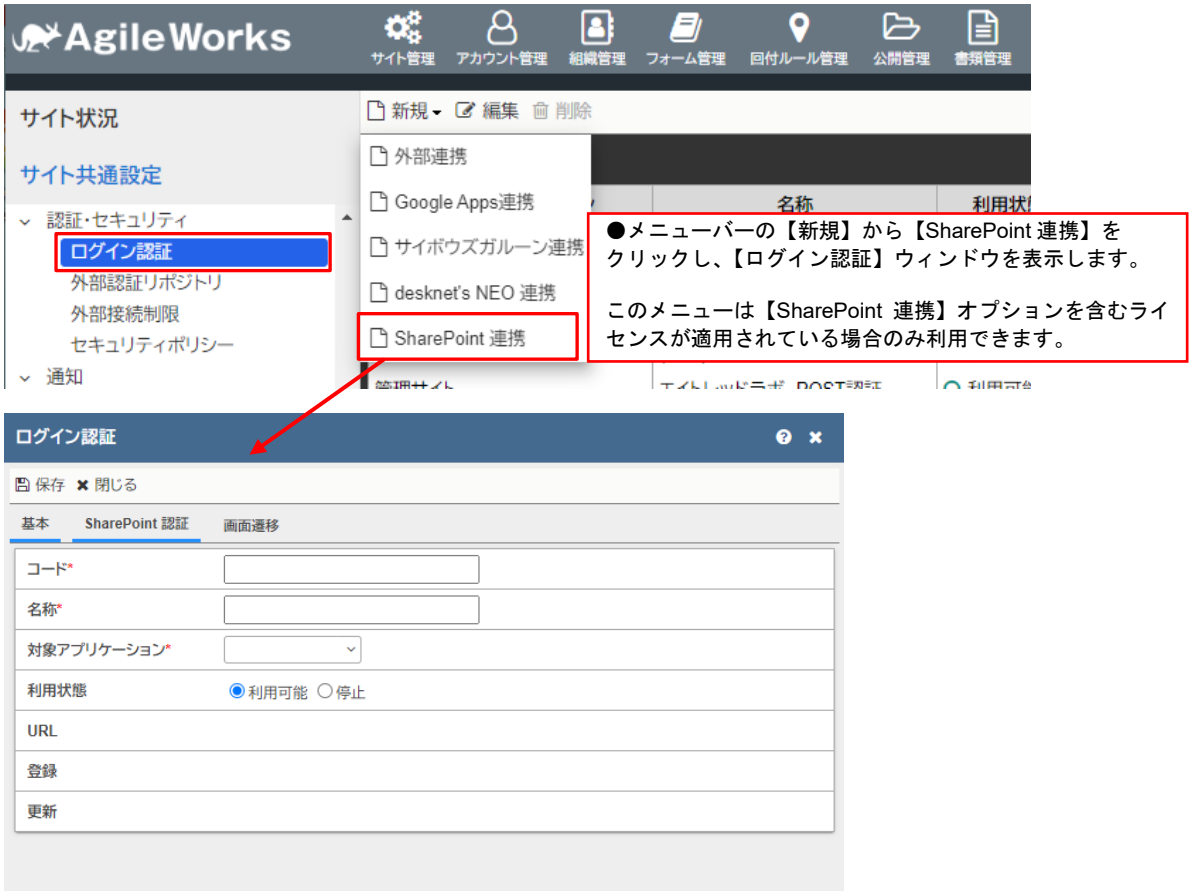
SharePoint 利用環境	アカウント情報の形式	AgileWorks 引き当て用送信情報
サーバーの登録アカウント（OS ユーザー）で利用	i:0#.w|samdom¥username	samdom¥username ユーザー拡張項目を利用した引当を推奨します。（※）
サーバーOS のユーザーを ActiveDirectory で管理しこの指定を使い利用 ※ 使用パターンで形式が異なる場合があります。	i:0#.w|samdom¥username@contoso.com	samdom¥username@contoso.com ユーザー拡張項目を利用した引当を推奨します。（※）
	i:0#.w|samdom¥username@samdom.contoso.com	samdom¥username@samdom.contoso.com ユーザー拡張項目を利用した引当を推奨します。（※）
	i:0#.w|samdom¥username	samdom¥username ユーザー拡張項目を利用した引当を推奨します。（※）
AD FS を利用しユーザー情報を利用	i:05.t|adfs|username@contoso.com ● 「adfs」部分は異なる場合があります。	username@contoso.com メールアドレスでの引当が一般的です

※　SharePoint の個人用設定で表示されるアカウントの最後に現れる“|”以降を引当情報として送信します。
※　Microsoft 365、SharePoint の認証方法は Microsoft 365 認証（Microsoft 365 の標準認証方法）、もしくはクレーム認証（パッケージ版 SharePoint の標準認証方法）である必要があります。
※　ユーザ拡張項目は“サイト共通設定”の“ユーザー拡張項目”で項目を有効に切り替えると使用できるようになります。

3）引当情報の値を AgileWorks のユーザー属性情報の値として設定する
上記 1，2 の手順で確認した引当情報の値を AgileWorks のユーザー属性情報の内、
ログイン ID／メールアドレス／ユーザーコード／ユーザー拡張項目のいずれかの項目の値として設定します。

5. AgileWorksログイン認証の設定

AgileWorks 管理サイト【サイト管理】-【サイト共通設定】-【認証・セキュリティ】-【ログイン認証】にアクセスし、「SharePoint 連携」用のログイン認証設定を追加します。

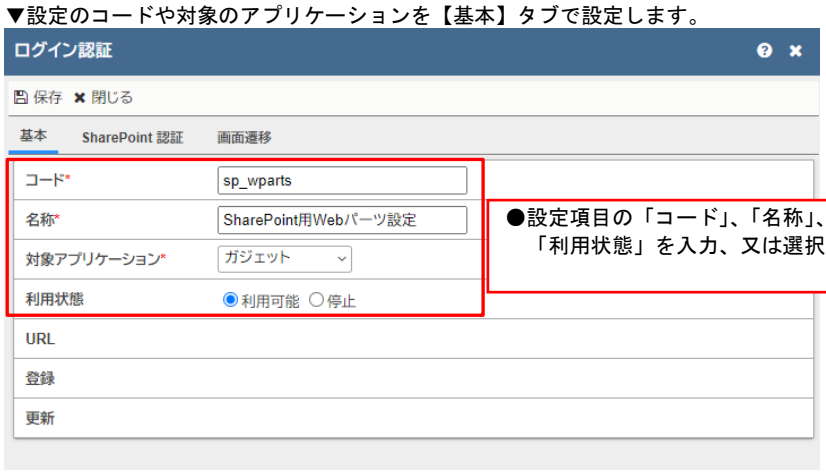


下記手順から、ガジェット用のログイン認証設定を追加します。

5.1. ガジェット用ログイン認証の設定

SharePoint のチームサイトに AgileWorks 用 Web パーツを表示する為のログイン認証設定手順を説明します。

▼設定のコードや対象のアプリケーションを【基本】タブで設定します。

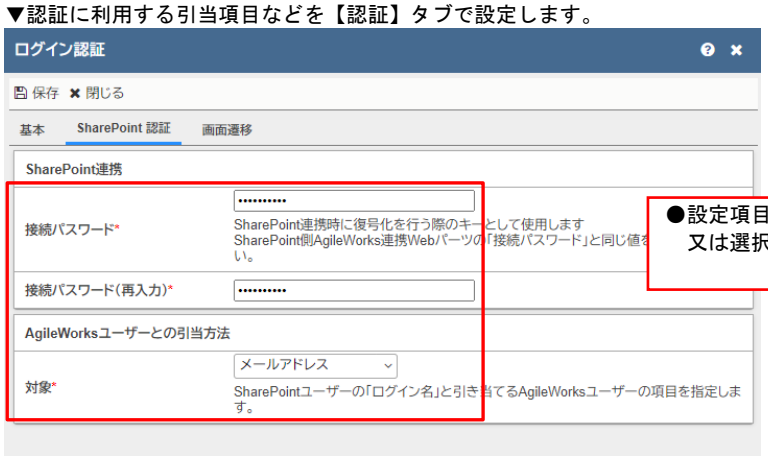


●設定項目の「コード」、「名称」、「対象アプリケーション」、「利用状態」を入力、又は選択します。

▼【基本】タブの設定項目

項目	説明
コード	設定を識別する為のコードです。 「ユーザーサイト用ログイン認証の設定」と統一したコードを設定します。 例）sp_wparts ※ 同じコードを SharePoint で配置する Web パーツに設定します。 sp_wparts と指定しておくとマニュアル通り読み進めることができます。
名称	設定を識別する為の名称です。 例）SharePoint 用 Web パーツ設定
対象アプリケーション	"ガジェット"を選択。
利用状態	"利用可能"にします。
URL	SharePoint 連携の設定では何も表示されません。

▼認証に利用する引当項目などを【認証】タブで設定します。

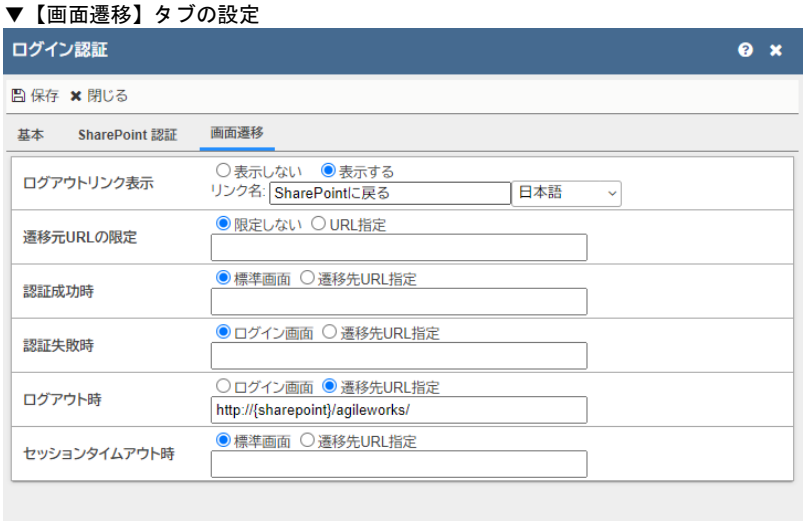


●設定項目の「接続パスワード」、「対象」を入力、又は選択します。

▼【SharePoint 認証】タブの設定項目

項目名	選択 / 入力値
接続パスワード	ガジェットを表示するリクエストの妥当性検証のために使用されます。 SharePoint で配置する Web パーツの接続パスワードにも同じ値を設定します。
対象	認証に利用する引当項目を以下から選択します。 ・ログイン ID　　・ユーザーコード ・メールアドレス　　・拡張項目 指定した項目は AgileWorks の登録全ユーザーで一意になる必要があります。 ● Microsoft 365 の場合は“メールアドレス”を利用するケースが多い ● SharePoint(パッケージ)の場合は“拡張項目”を利用するケースが多い。

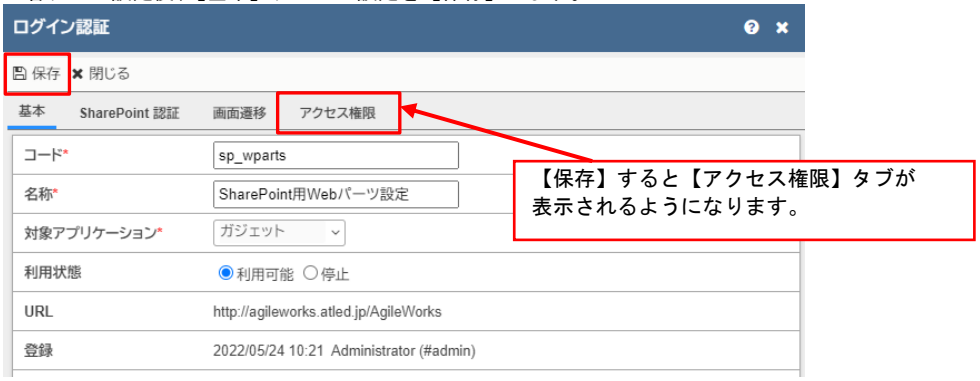
▼【画面遷移】タブの設定



▼【画面遷移】タブの設定項目

項目名	選択 / 入力値
ログアウトリンク表示	「ユーザーサイト用 SSO 設定」と同じ設定にしてください。
遷移元 URL の限定	遷移元 URL を限定する場合は、URL を指定します。
認証成功時	SharePoint 連携のユーザーサイト用設定では利用しない項目です。 【標準画面】に設定してください。
認証失敗時	ログイン認証失敗時の遷移先を指定します。 指定しない状態であっても AgileWorks を利用する上での問題はありません。 ▼ 推奨設定 SharePoint にのみ存在するユーザーが AgileWorks に登録が無い場合等を考慮して「SharePoint からの SSO 認証が許可されていません」等と表示する画面(HTML)を用意した上で、「認証失敗時の遷移先」には専用エラー画面 URL を指定します。
ログアウト時	「ユーザーサイト用 SSO 設定」と同じ設定にしてください。
セッション タイムアウト時	「ユーザーサイト用 SSO 設定」と同じ設定にしてください。

▼各タブの設定後、【基本】タブにて設定を【保存】します。



※ 【アクセス権限】の詳細は別紙「Aw02-ログイン認証&SSO」の「ログイン認証設定のアクセス権限」を参照ください。

ユーザーサイト用ログイン認証、ガジェット用ログイン認証の設定を追加すると、「ログイン認証」の一覧に 2 つの設定が表示されます。



6. Microsoft 365／SharePoint Onlineの設定

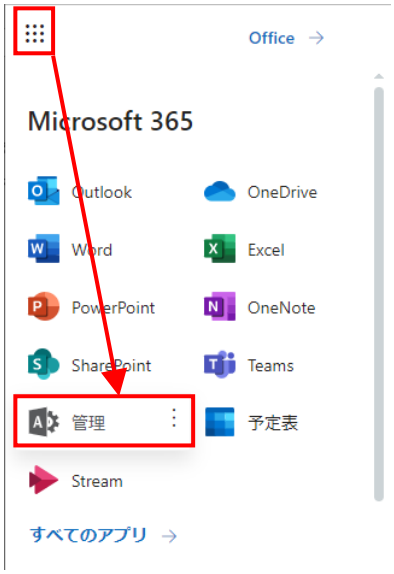
Microsoft 365／SharePoint Online を利用している場合、本章の設定を行います。
SharePoint Server／Foundation を利用している場合は、SharePoint Server / Foundation の設定を行います。

6.1. アプリカタログの作成

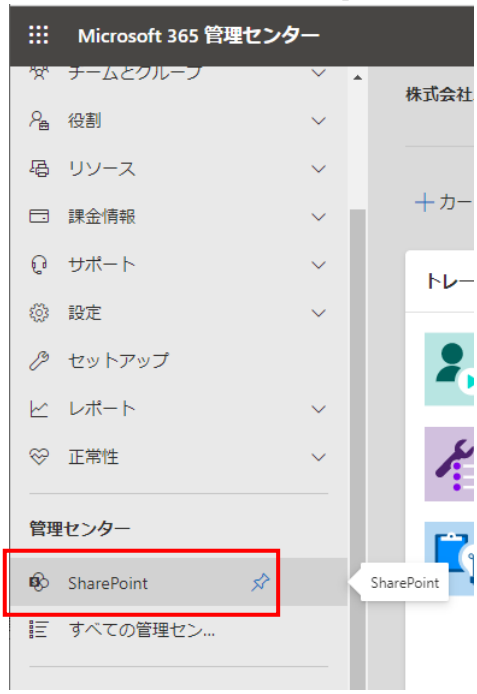
SharePoint に AgileWorks の情報を表示するための Web パーツは「agileworks-spfx.sppkg」という名称の“SharePoint FrameWork”ファイルとして提供されます。SharePoint FrameWork を利用可能にするため、アプリカタログの作成を行います。

アプリカタログの作成は「SharePoint 管理センター」で行います。

1） フルコントロール権限を持つユーザーで Microsoft 365 にログインし、「管理者」アプリに移動します。



2） 「Microsoft 365 管理センター」から「SharePoint 管理センター」に移動します。



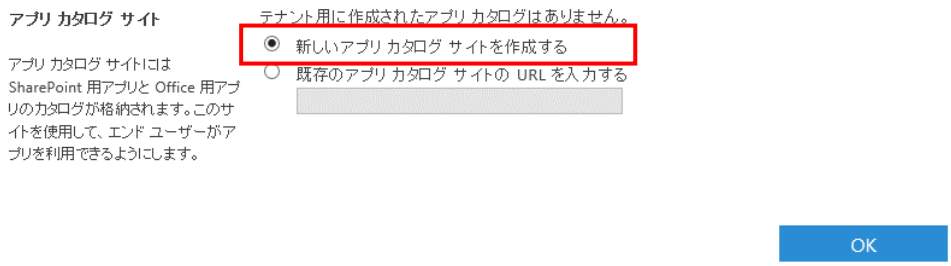
3） 「アプリ」をクリックします。



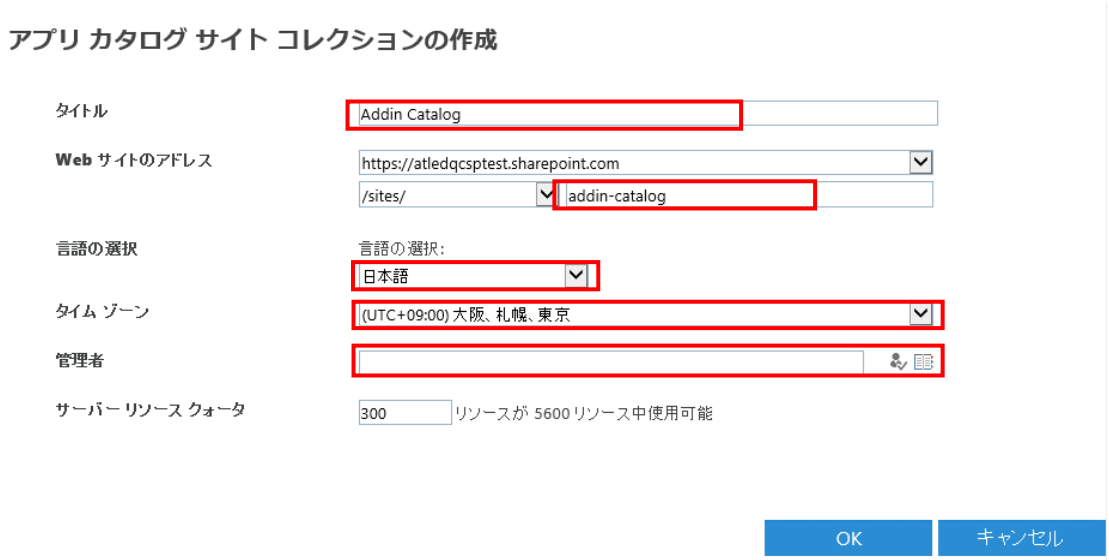
4） 「アプリカタログ」をクリックします。



5） 「アプリカタログの作成」を選択し、「OK」をクリックします。



6） 「アプリカタログサイトコレクション」を作成します。



▼カタログサイトコレクションの設定値

項目名	選択 / 入力値
タイトル	Addin Catalog
Web サイトのアドレス	Addin-catalog
言語の選択	日本語
タイムゾーン	(UTC +09:00) 大阪、札幌、東京
管理者	カタログサイトの管理を行うユーザーのアカウントを設定してください。

6.2. アプリの登録

作成したアプリカタログに AgileWorks と連携を行うための SharePoint FrameWork を登録します。

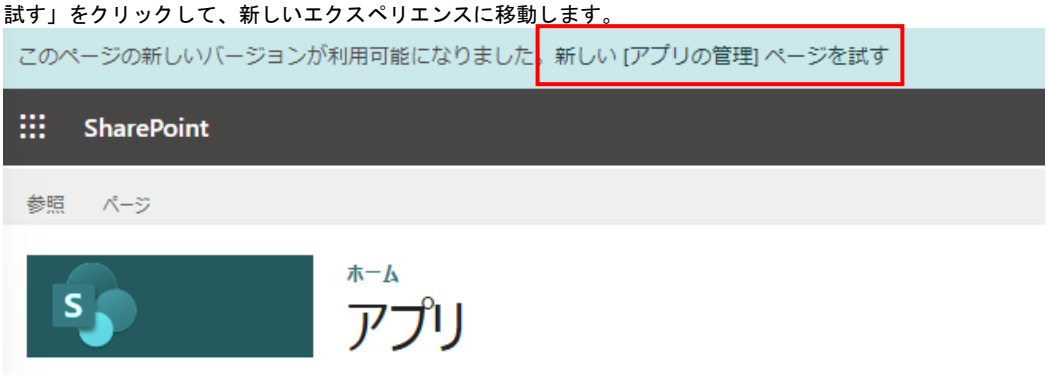
アプリパッケージの準備

アプリパッケージファイルは AgileWorks サポートサイトよりダウンロードすることが出来ます。
HOME＞ダウンロード＞製品モジュール R3.1
「Sharepoint 連携オプション用モジュール ＞ クラウド版 Sharepoint Online 用」より「SharePoint FrameWork.zip」をダウンロードし、ファイルを解凍してください。

アプリのアップロード

1） カタログサイトの作成時に設定したアドレスにアクセスし、カタログサイトを表示します。
アドレス例）https://xxxxx.sharepoint.com/sites/addin-catalog

アプリカタログに従来のエクスペリエンスが表示されている場合は、ヘッダーの 「新しい[アプリの管理]ページを試す」をクリックして、新しいエクスペリエンスに移動します。



2） アプリパッケージファイル「agileworks-spfx.sppkg」をアップロードします。



３）「このアプリのみを有効にする」を選択してアプリを有効化します。



アップロードが完了すると一覧に表示されます。

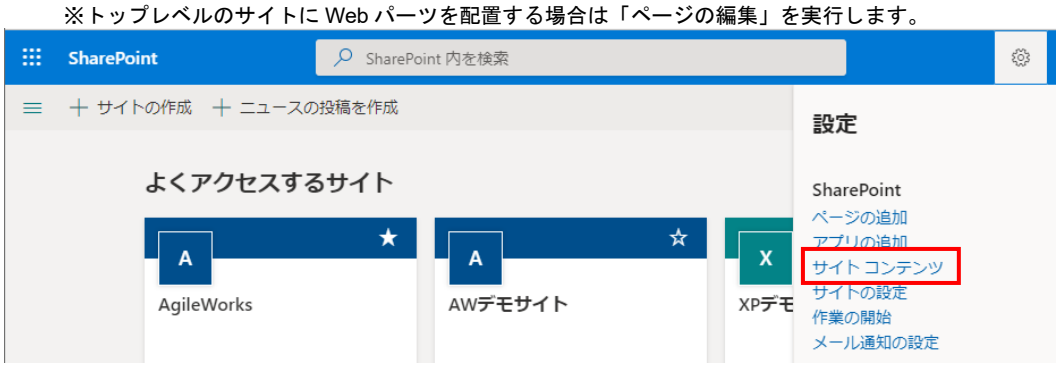


6.3. サイトコンテンツの作成

AgileWorks と連携を行う Web パーツをサブサイトに配置して利用する例を示します。実際のサイトの作成は運用内容に沿って作成するようにしてください。

サイトコンテンツの作成

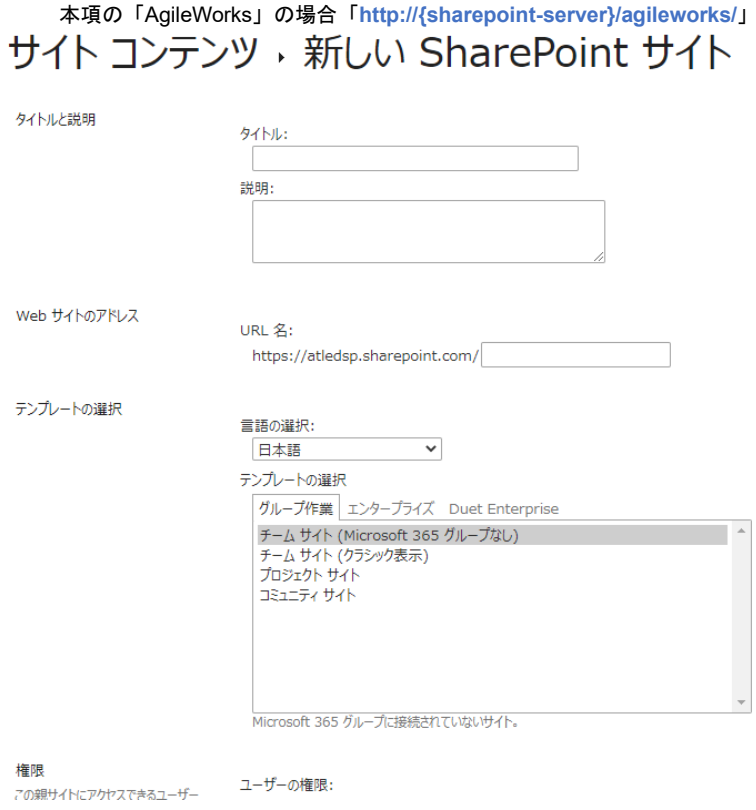
1） SharePoint にログインし「サイト コンテンツ」画面を開きます。
※トップレベルのサイトに Web パーツを配置する場合は「ページの編集」を実行します。



2） サブサイトを新規に登録します

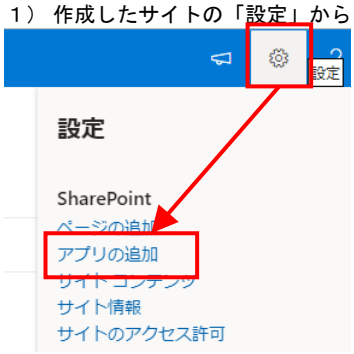


3） 作成するサイトの情報を入力し、画面下部の【作成】を実行します。
・テンプレートは何れかのチームサイト、「Microsoft 365 グループなし」（モダン表示）または「クラシック表示」を選択します。
・テンプレート以外の項目詳細については SharePoint のマニュアルを参照してください。
本マニュアルでは、タイトルに「AgileWorks」、Web サイトアドレスに「agileworks」を指定します。
・Web サイトアドレスは作成したサブサイトを直接表示する際のアドレスに利用できます。
本項の「AgileWorks」の場合「http://{sharepoint-server}/agileworks/」でサイト表示ができます。



アドインの追加

1） 作成したサイトの「設定」から「アプリの追加」を行います。



2） 「組織から」を選択し、「AgileWorks_SharePoint_Linked_Apps」の「追加」をクリックしてアプリを追加します。
「追加」ボタンが「追加しました」の表記になっていれば追加出来ています。
ページを再表示したタイミングで「追加されたアプリ」欄に表示されるようになります。



3） アドインの追加が完了すると、サイトコンテンツの一覧が以下の様な表示となります。
※追加が完了するまで時間がかかる場合があります。



Webパーツの配置

作成したサイトに AgileWorks を表示する為の Web パーツを配置します。
サイト作成時に選択したテンプレートによって画面が異なりますので、それぞれのテンプレートに対応した項をご参照ください。

- 「チームサイト（Microsoft 365 グループなし）」（モダン表示）を選択した場合
  - 「Web パーツの配置：モダン表示の場合」
- 「チームサイト（クラシック表示）」
  - 「Web パーツの配置：クラシック表示の場合」

Webパーツの配置：モダン表示の場合

ここでは２段組みのサイトを作成し、「書類件数」「書類作成」「書類一覧」分の Web パーツを配置します。

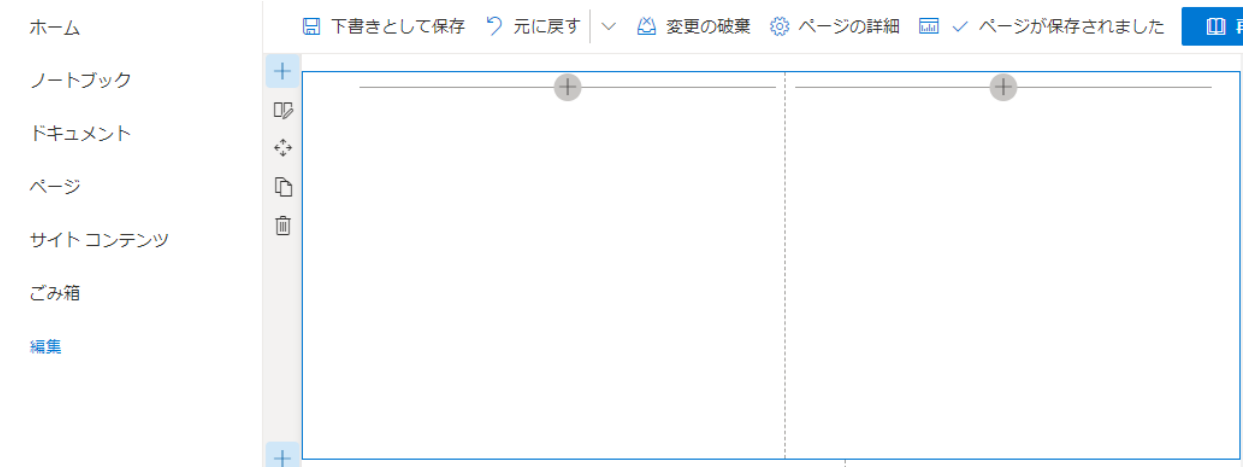
１） 作成した「AgileWorks」チームサイトを表示し「編集」を実行します。



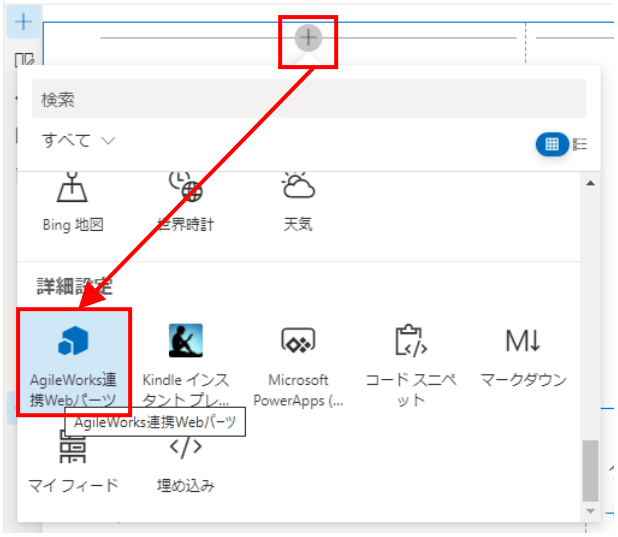
２） 「＋」ボタンから２段組セクションを追加します。



選択した２段組のセクションが追加されます。



3） 「＋」ボタンから「AgileWorks 連携 Web パーツ」を追加します。



4） プロパティの設定を求められますが、残り 2 つのガジェット分も追加します。
本マニュアルでは左側に 2 つ、右側に 1 つ用意しています。



5） 続けて追加した Web パーツの設定を行います。
設定の詳細は「Web パーツの設定」をご参照ください。

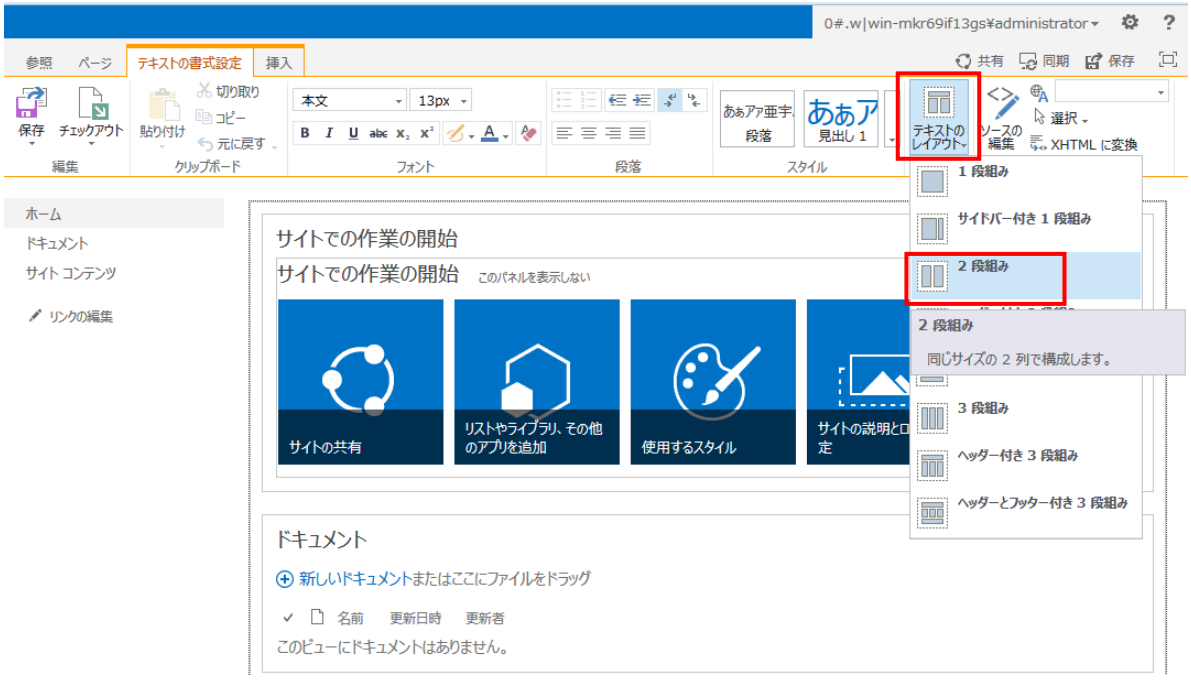
Webパーツの配置：クラシック表示の場合

ここでは２段組みのサイトを作成し、「書類件数」「書類作成」「書類一覧」分の Web パーツを配置します。

１）作成した「AgileWorks」チームサイトを表示し「編集」を実行します。

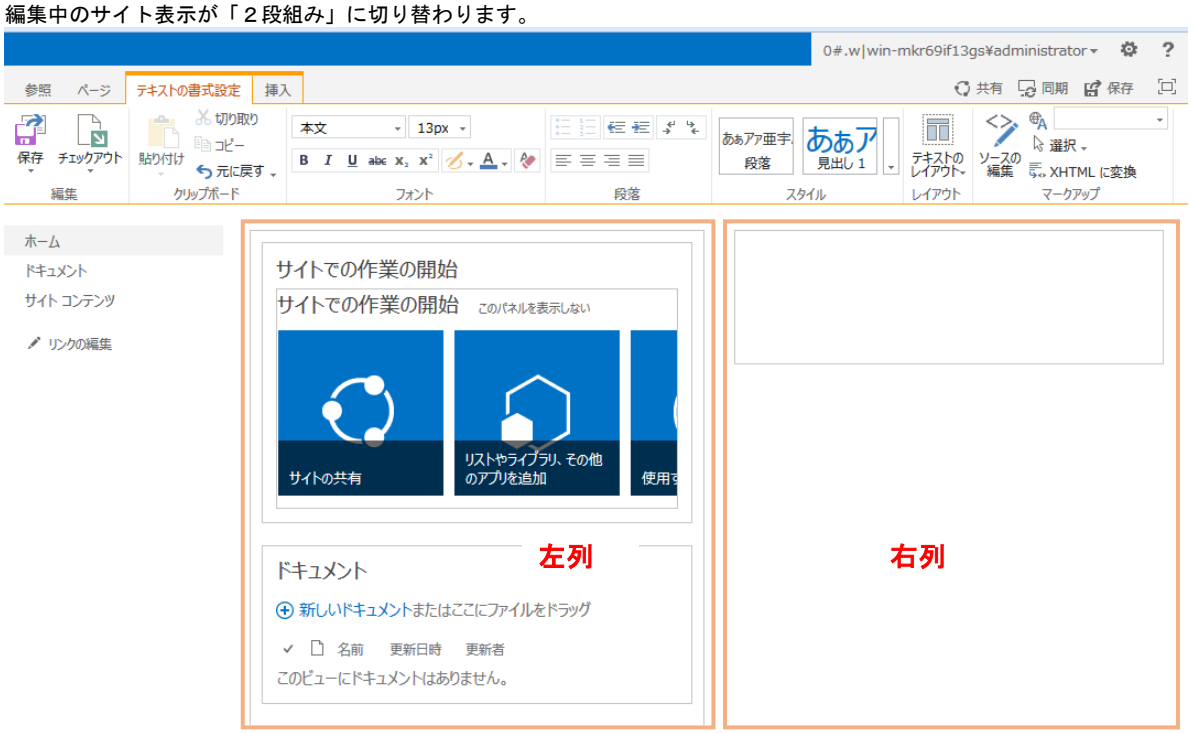


２）「テキストのレイアウト」を実行し、サイトのレイアウトを「２段組み」に指定します。



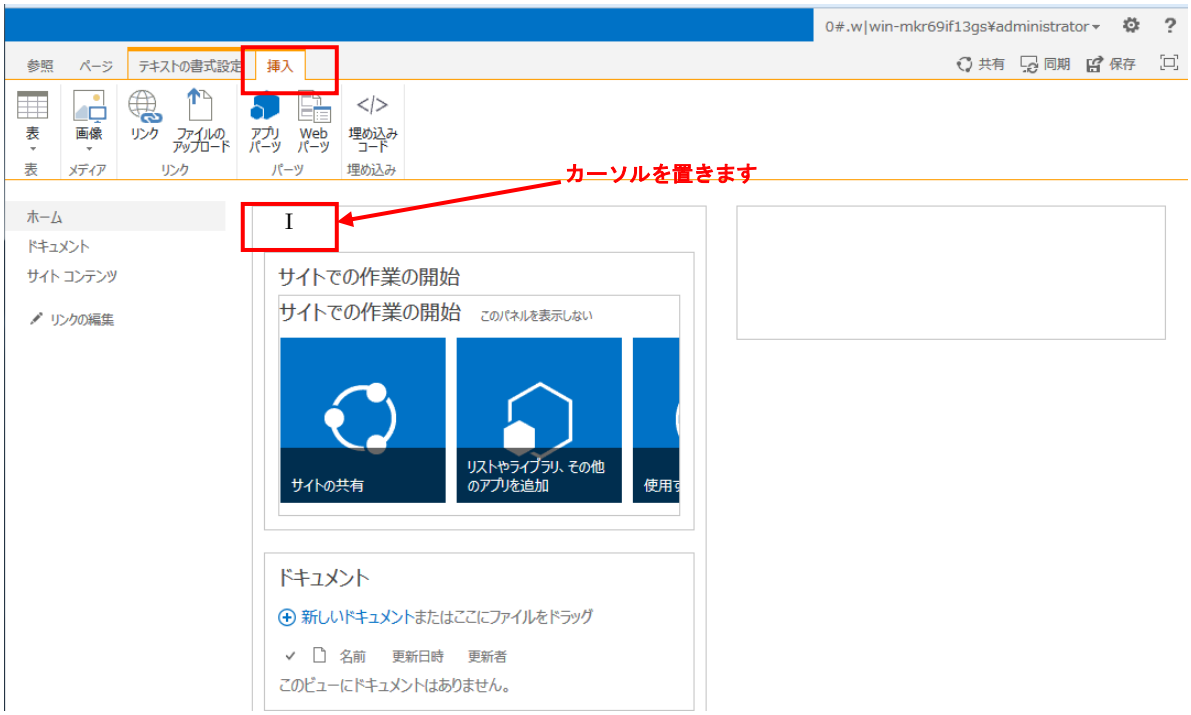
※　レイアウトの指定は「２段組み」以外のレイアウトを指定しても構いません。
運用にあわせ指定してください。

編集中のサイト表示が「２段組み」に切り替わります。



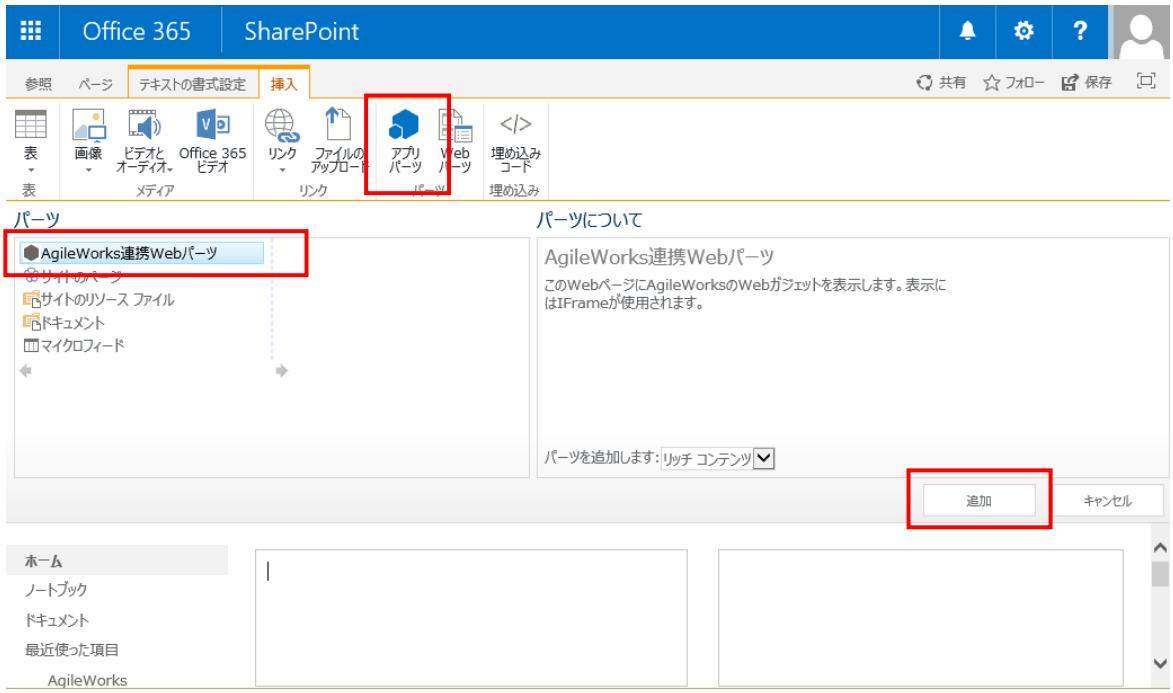
※　初期表示されている「サイトでの作業開始」、「ドキュメント」は削除してもかまいません。

３）リボンの「挿入」をクリックし、サイト左列の先頭をクリックしカーソルを配置します。

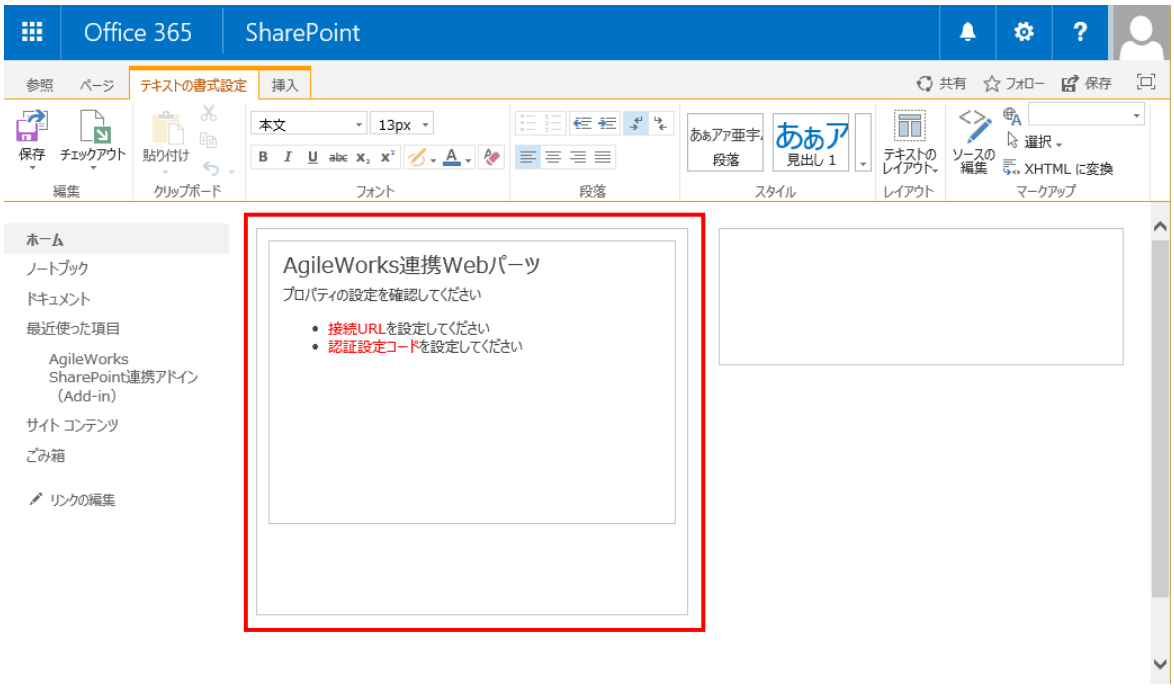


4）左列に「AgileWorks 連携 Web パーツ」を配置します。

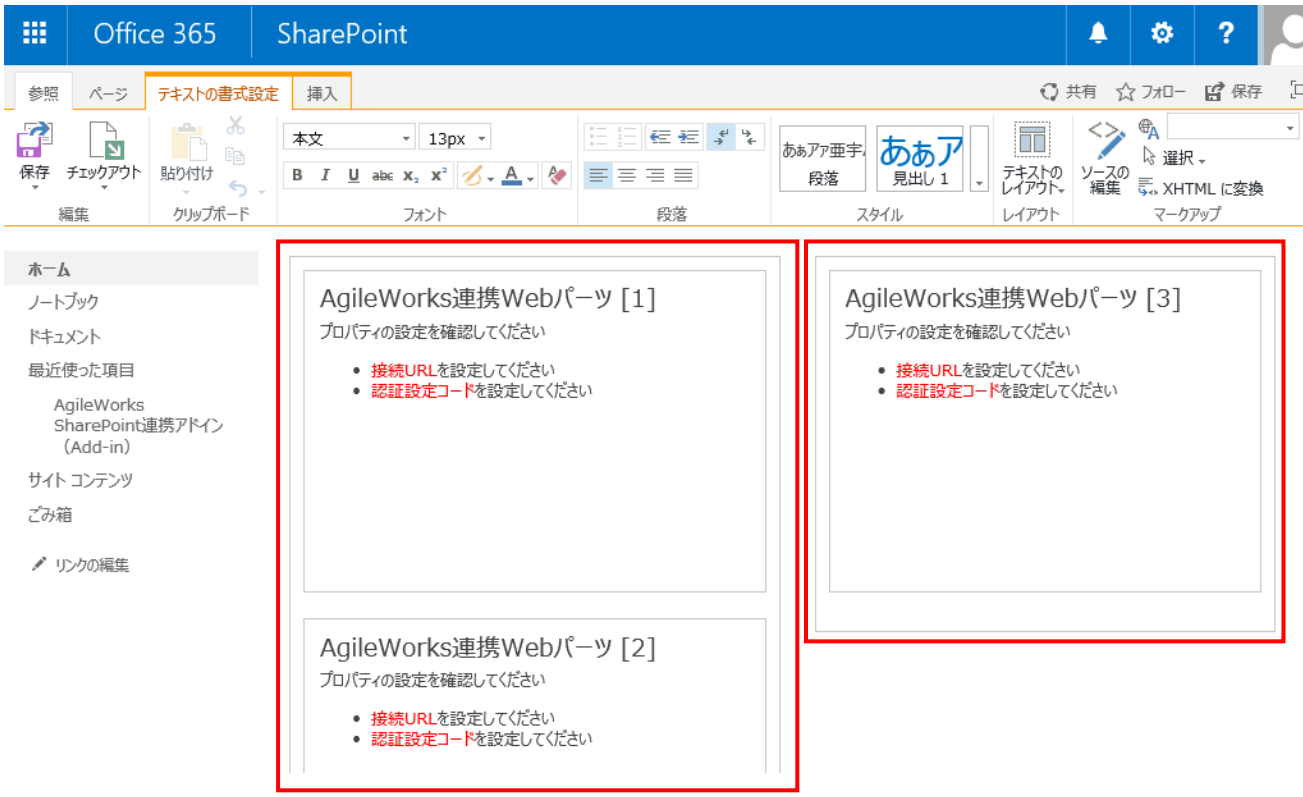
リボンの【アプリパーツ】をクリックし“AgileWorks 連携 Web パーツ”をサイト上に配置します。



カーソルを指定した左列の位置に Web パーツが追加されます。



引き続き、Web パーツを追加し、サイト内に計３つの AgileWorks 連携 Web パーツを配置します。



※　カッコ内に表示される数字は、重複する名称の Web パーツが存在する場合、便宜的に表示されます。Web パーツを追加する手順により図とは異なる番号になりますが、設定後の動作に違いはありません。

続いて、追加した Web パーツについて、Web パーツの設定に従って設定を行います。

7. SharePoint Server / Foundationの設定

SharePoint Server／Foundation を利用している場合、本章の設定を行います。
Microsoft 365／SharePoint Online を利用している場合は、Microsoft 365／SharePoint Online の設定を行います。

7.1. ソリューションの登録とアクティブ化

SharePoint に AgileWorks の情報を表示するための Web パーツは「AgileWorksWebParts.wsp」という名称の“ソリューションパッケージ”ファイルとして提供されます。ソリューションパッケージを利用可能にするため、ソリューションパッケージの登録を行います。

ソリューションパッケージの準備

ソリューションパッケージファイルは AgileWorks サポートサイトよりダウンロードすることが出来ます。

HOME＞ダウンロード＞製品モジュール R2.12.x
「■SharePoint 連携」より「AwR212_WebParts_for_sharepoint.zip」をダウンロードし、ファイルを解凍してください。

ソリューションパッケージのアップロードとアクティブ化

ソリューションの登録はトップレベルのサイトで行ないます。

1）フルコントロール権限を持つユーザーで SharePoint にログインします。



2）「サイトの設定」を表示します。



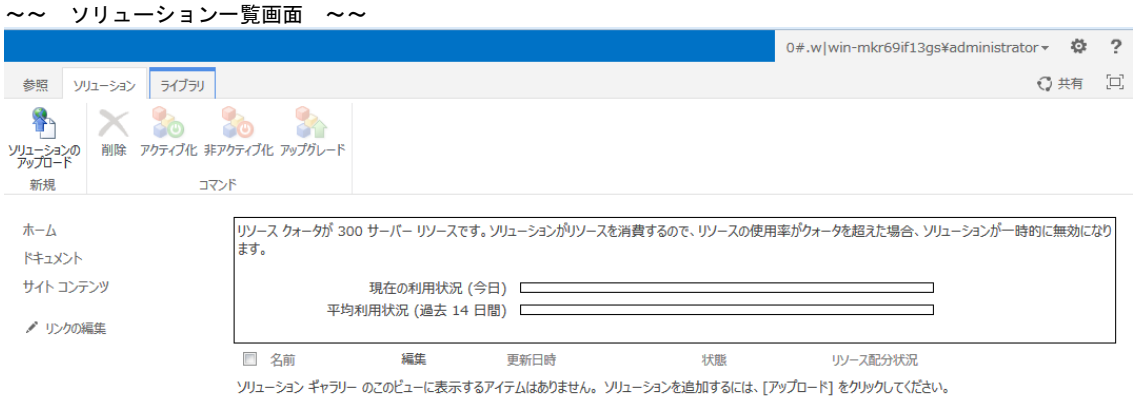
3）「ソリューション」をクリックし一覧画面を表示します。



※　「Web デザイン ギャラリー」に「ソリューション」が表示されない場合は、サブサイトの設定画面が表示されています。「サイト コレクションの管理」の「トップ レベルのサイト設定に移動」をクリックし、トップレベルのサイト設定に移動してください。

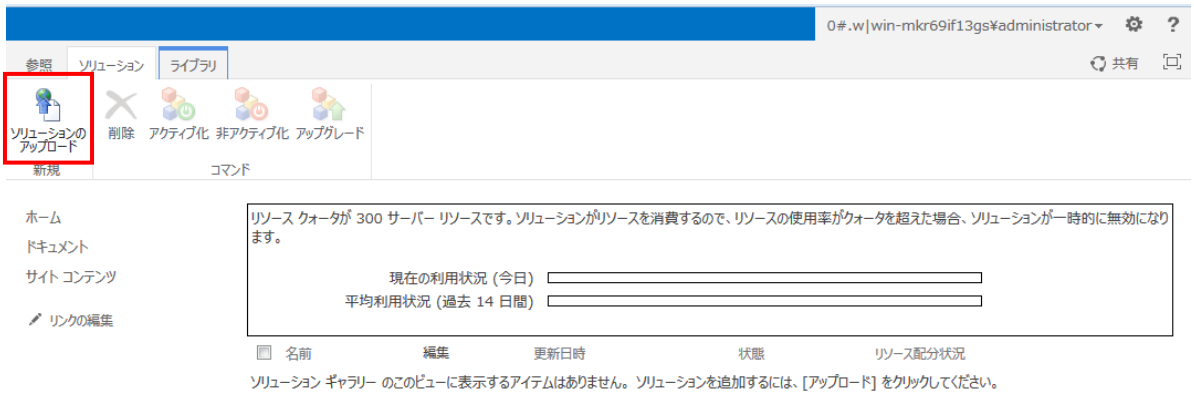
※　「申し訳ございません。このサイトはあなたと共有されていません。」が表示された場合、ログイン中のユーザーはサイトの設定を変更する権限を持っていません。SharePoint サーバーに対し“フルコントロール”の権限を持つユーザーで作業を行うか、ログイン中のユーザーに“フルコントロール”の権限を付与してください。

～～　ソリューション一覧画面　～～

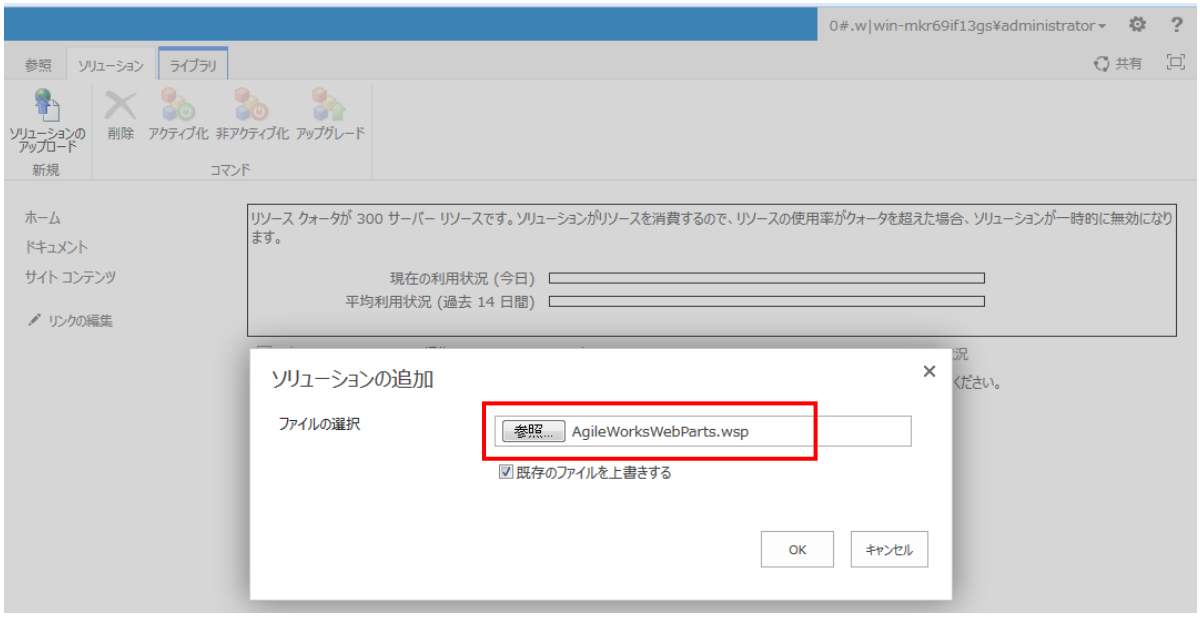


※　登録済みのソリューションが無い状態の画面です。

4）リボンメニューより「ソリューションのアップロード」を実行します。

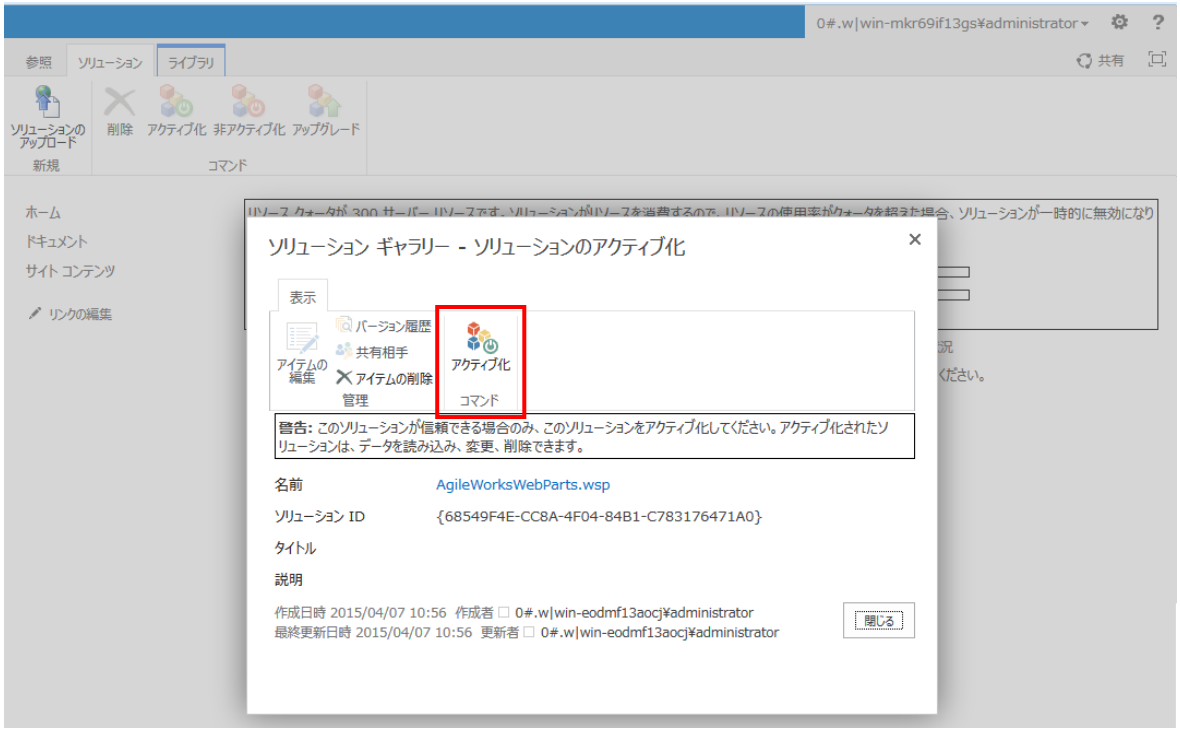


5）「ソリューションの追加」ダイアログで“AgileWorksWebParts.wsp”を指定します。



※　新規登録の場合「既存のファイルを上書きする」のチェックは必須ではありません。

6）アップロードが完了したら「アクティブ化」を実行します。



7）ソリューション一覧にソリューションが追加されます。



※　「状態」欄に「アクティブ」と表示されていないソリューションは利用する事が出来ません。
アップロードを行ったソリューションが「アクティブ」になっていない場合は、ソリューション名にマウスカーソルを合わせ、名前左に表示されるチェックボックスをチェックしたのち、リボンの【アクティブ化】を実行します。

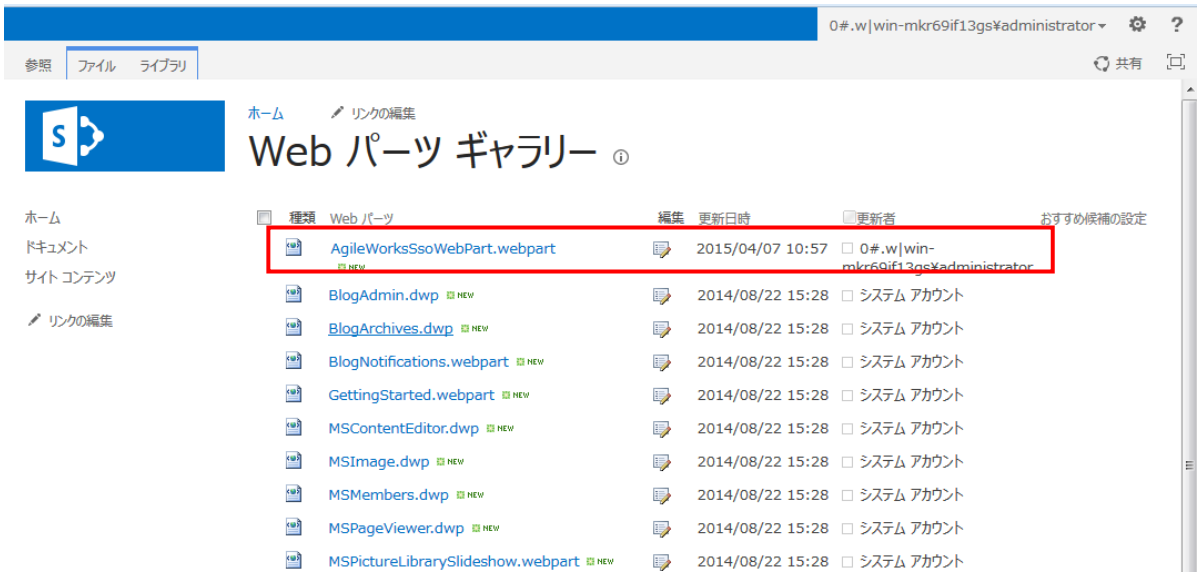
Webパーツの確認

登録された Web パーツの状態を確認します。

1）トップ・サイトの「サイト設定」画面を表示し「Web デザイナー ギャラリー」の「Web パーツ」を実行します。

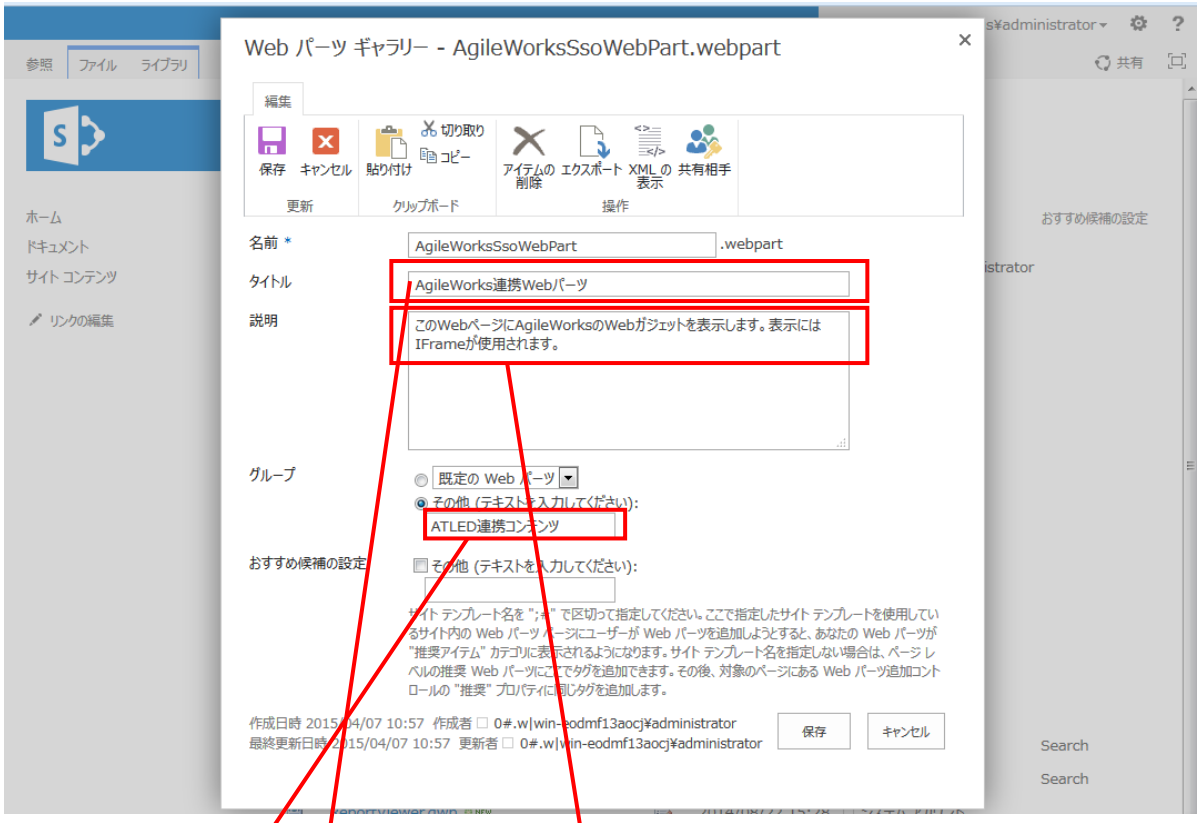


2）登録 Web パーツの一覧から「AgileWorksSsoWebPart.webpart」の編集アイコン（）を実行します。

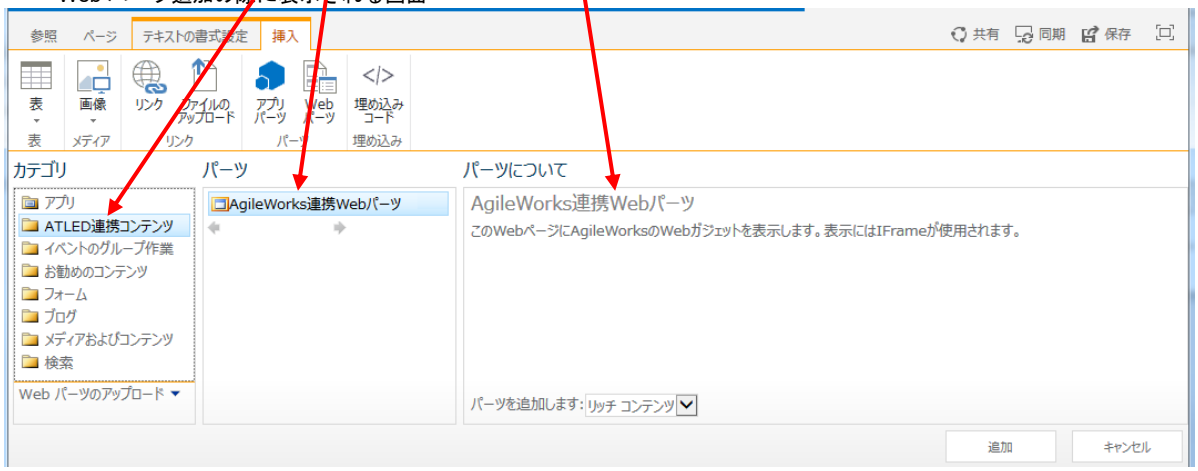


３）登録内容を確認します。

サイトに Web パーツを追加する際の表示情報を必要に応じ修正します。
登録内容は Web パーツをサイトに配置する際に画面説明として使用されます。通常、初期値のままで問題ありません。



～～ Web パーツ追加の際に表示される画面 ～～



7.2. サイトコンテンツの作成

AgileWorks と連携を行う Web パーツをサブサイトに配置して利用する例を示します。実際のサイトの作成は運用内容に沿って作成するようにしてください。

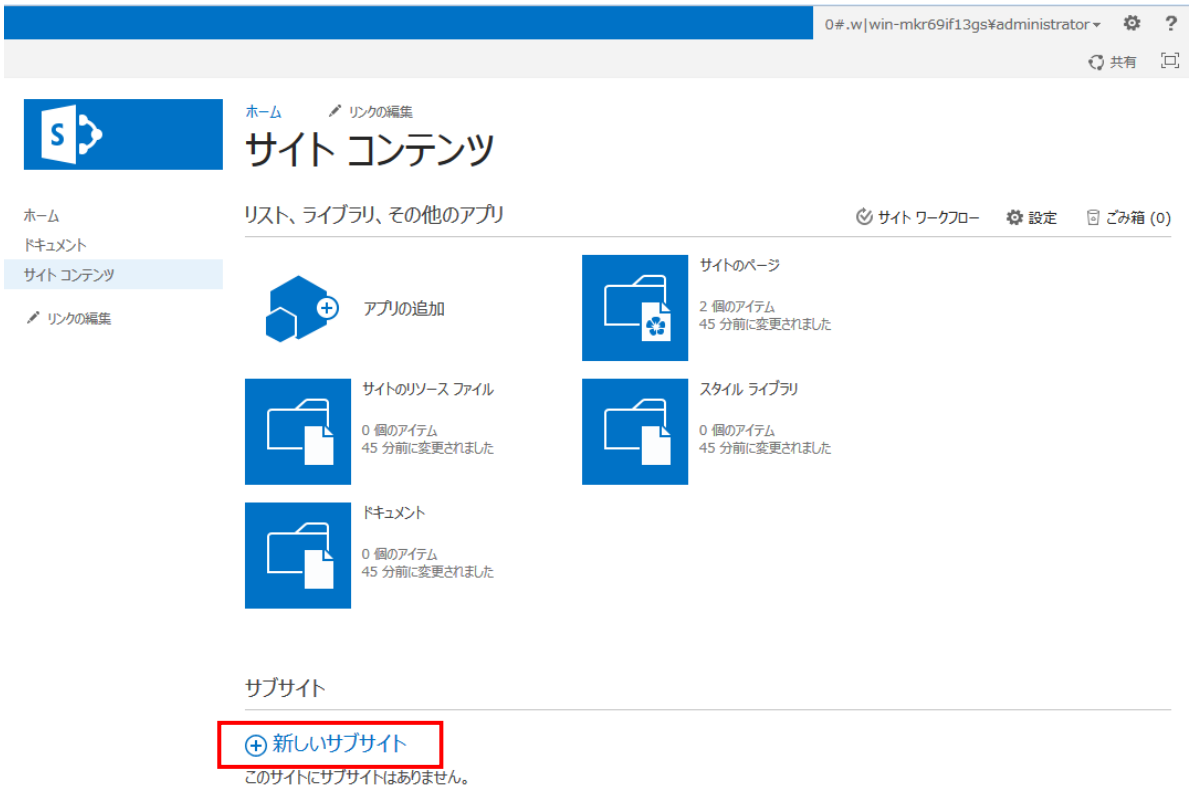
サイトコンテンツの作成

1）SharePoint にログインし「サイト コンテンツ」画面を開きます。



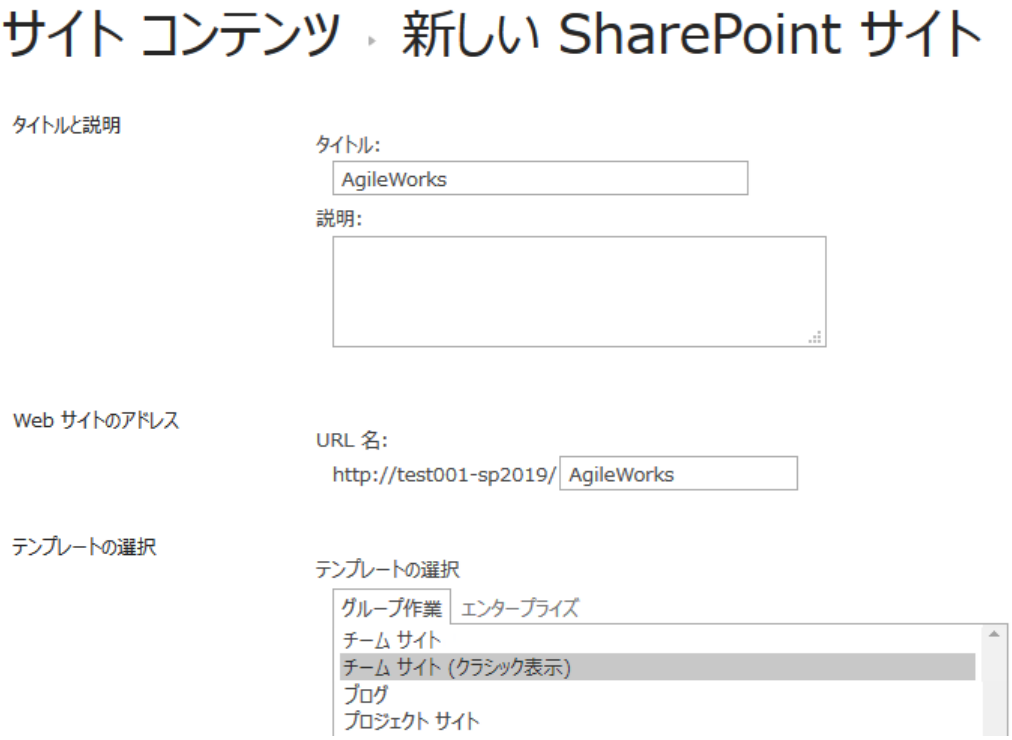
※　トップレベルのサイトに Web パーツを配置する場合は「ページの編集」を実行します。

2）「新しいサブサイト」をクリックします。



３）作成するサイトの情報を指定します。

ここでは、タイトルに「AgileWorks」、Web サイトアドレスに「agileworks」を指定します。
また、テンプレートには「チームサイト（クラシック表示）」を指定します。



※　サイト作成の詳細については SharePoint マニュアルを参照してください。
※　Web サイトアドレスは作成したサブサイトを直接表示する際のアドレスに利用できます。
　　本項の「AgileWorks」の場合「**http://{sharepoint-server}/agileworks/**」でサイト表示ができます。

指定が完了したら、画面下部の【作成】を実行します。指定内容が保存されると新しいサイトが表示されます。



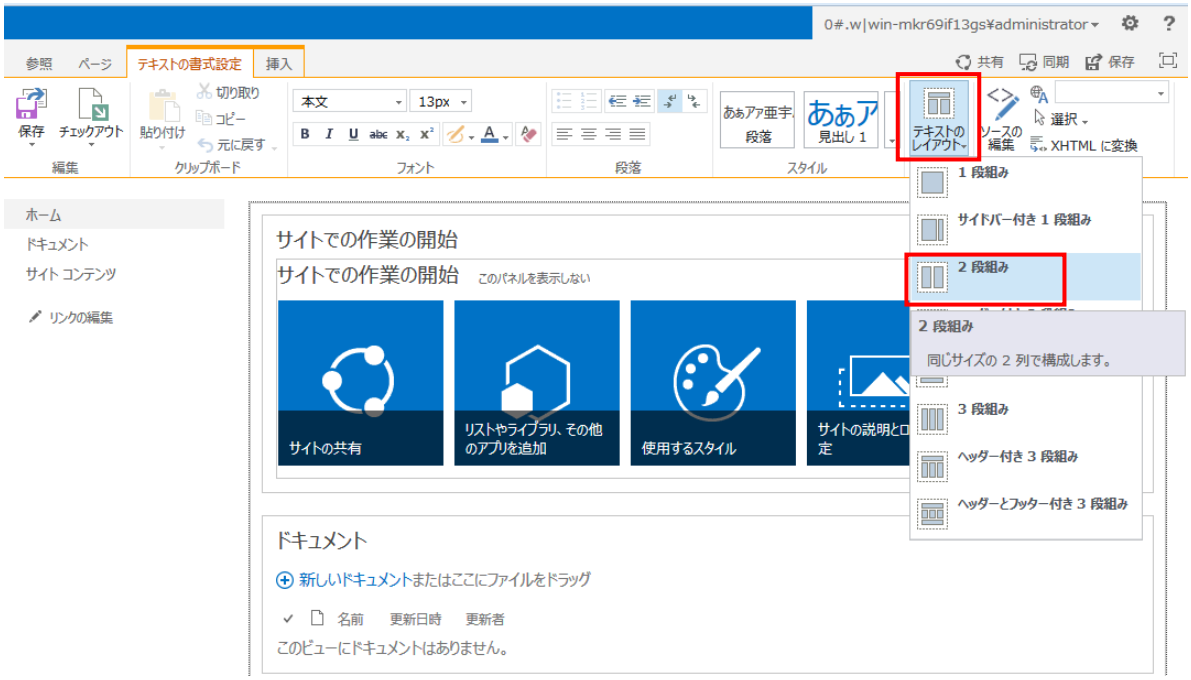
Webパーツの配置

作成したサイトに AgileWorks を表示する為の Web パーツを配置します。
ここでは２段組みのサイトを作成し、「書類件数」「書類作成」「書類一覧」分の Web パーツを配置します。

１）作成した「AgileWorks」チームサイトを表示し「編集」を実行します。

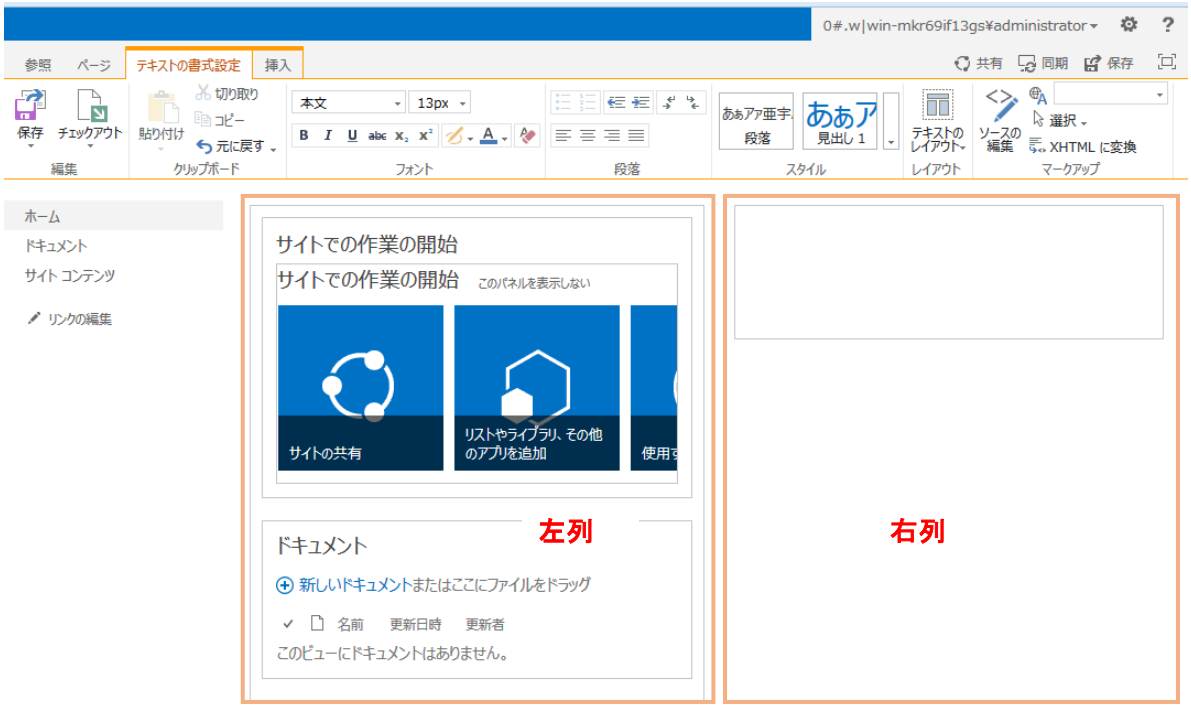


２）「テキストのレイアウト」を実行し、サイトのレイアウトを「２段組み」に指定します。



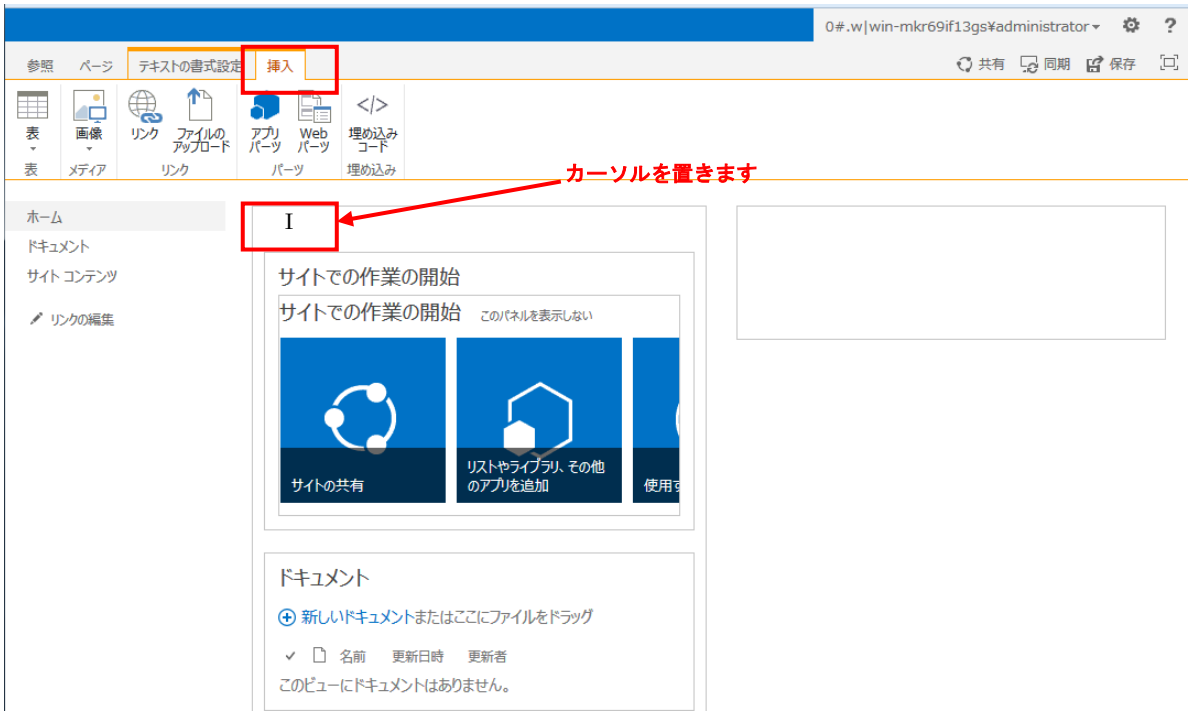
※　レイアウトの指定は「２段組み」以外のレイアウトを指定しても構いません。
運用にあわせ指定してください。

編集中のサイト表示が「２段組み」に切り替わります。



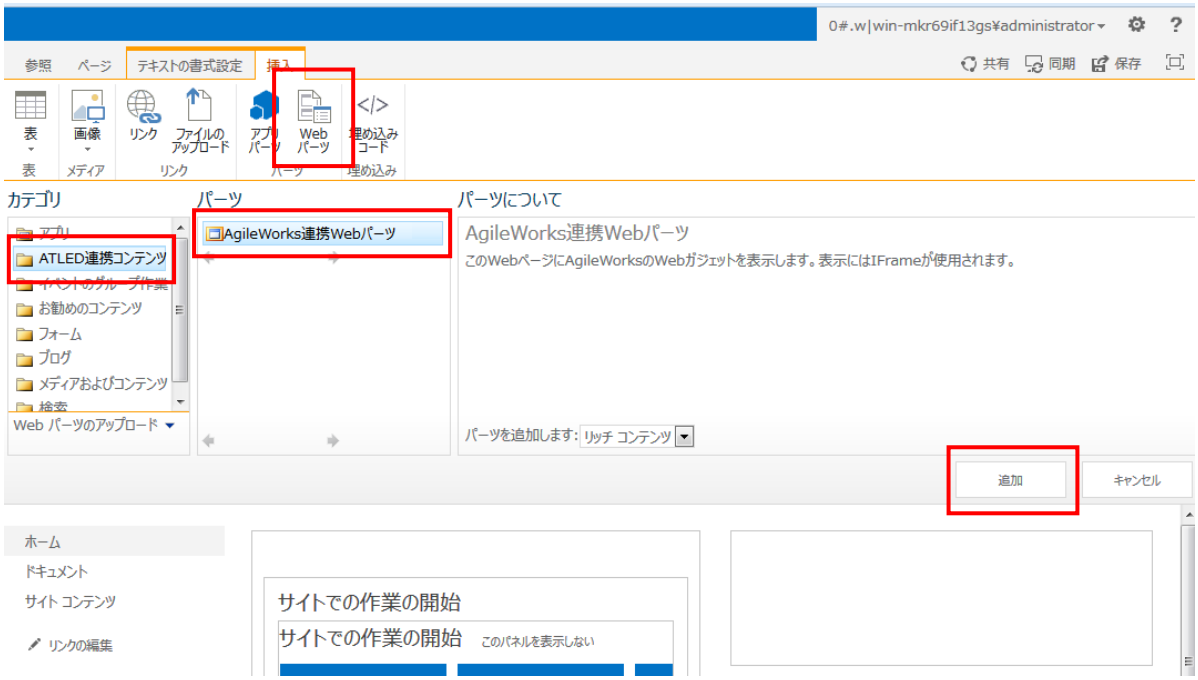
※　初期表示されている「サイトでの作業開始」、「ドキュメント」は削除してもかまいません。

３）リボンの「挿入」をクリックし、サイト左列の先頭をクリックしカーソルを配置します。

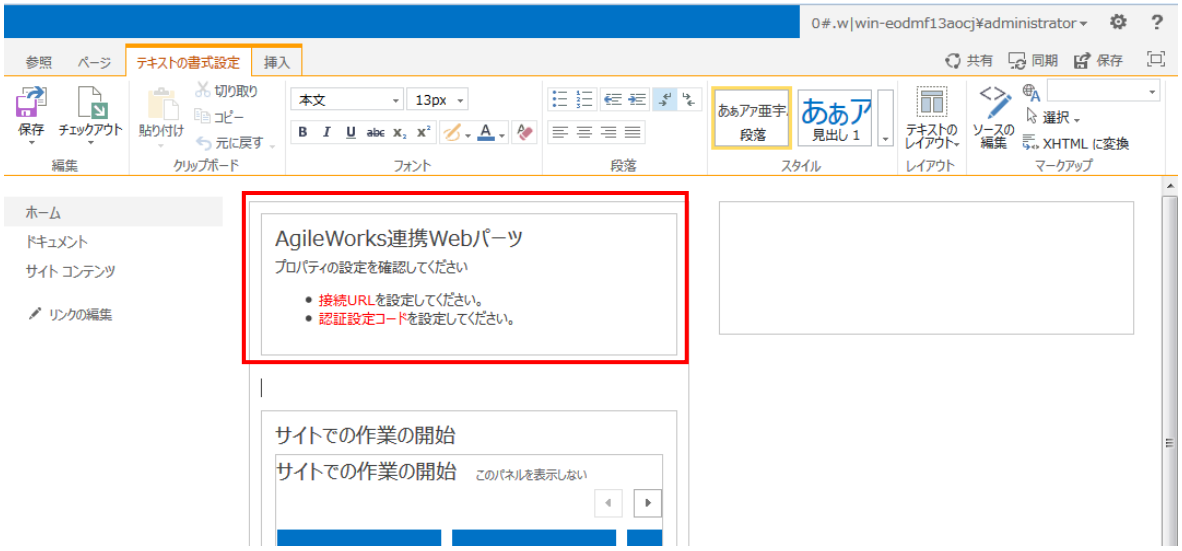


4）左列に「AgileWorks 連携 Web パーツ」を配置します。

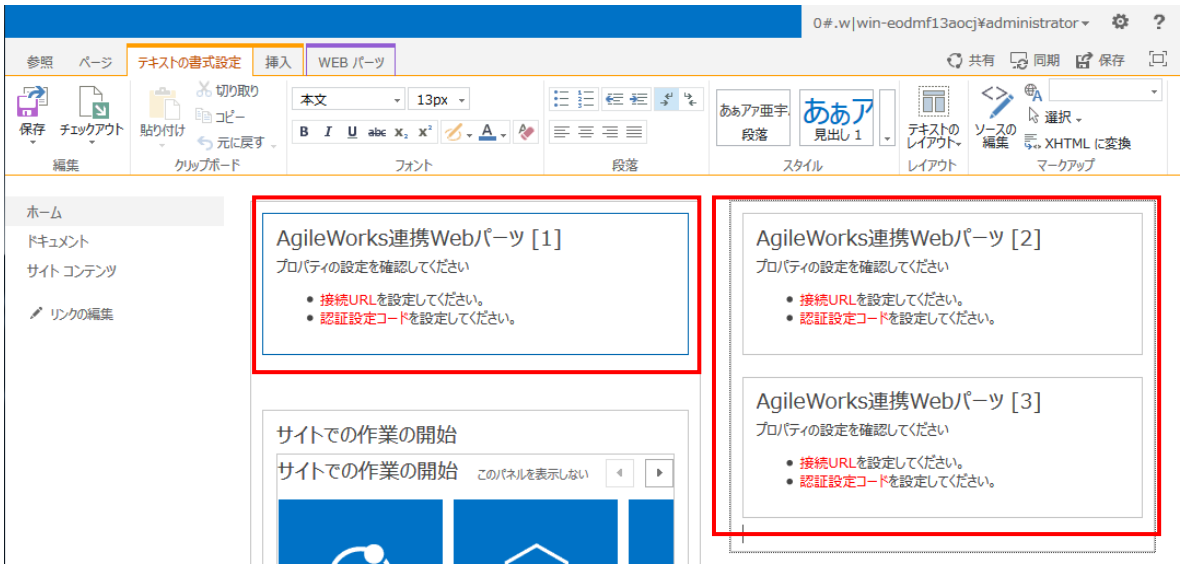
リボンの【Web パーツ】をクリックし“AgileWorks 連携 Web パーツ”をサイト上に配置します。



カーソルを指定した左列の位置に Web パーツが追加されます。



引き続き、Web パーツを追加し、サイト内に計３つの AgileWorks 連携 Web パーツを配置します。



※　カッコ内に表示される数字は SharePoint が重複する名称の Web パーツが存在する場合、便宜的に表示されます。Web パーツを追加する手順により図とは異なる番号になりますが、設定後の動作に違いはありません。

続いて、追加した Web パーツについて、Web パーツの設定に従って設定を行います。

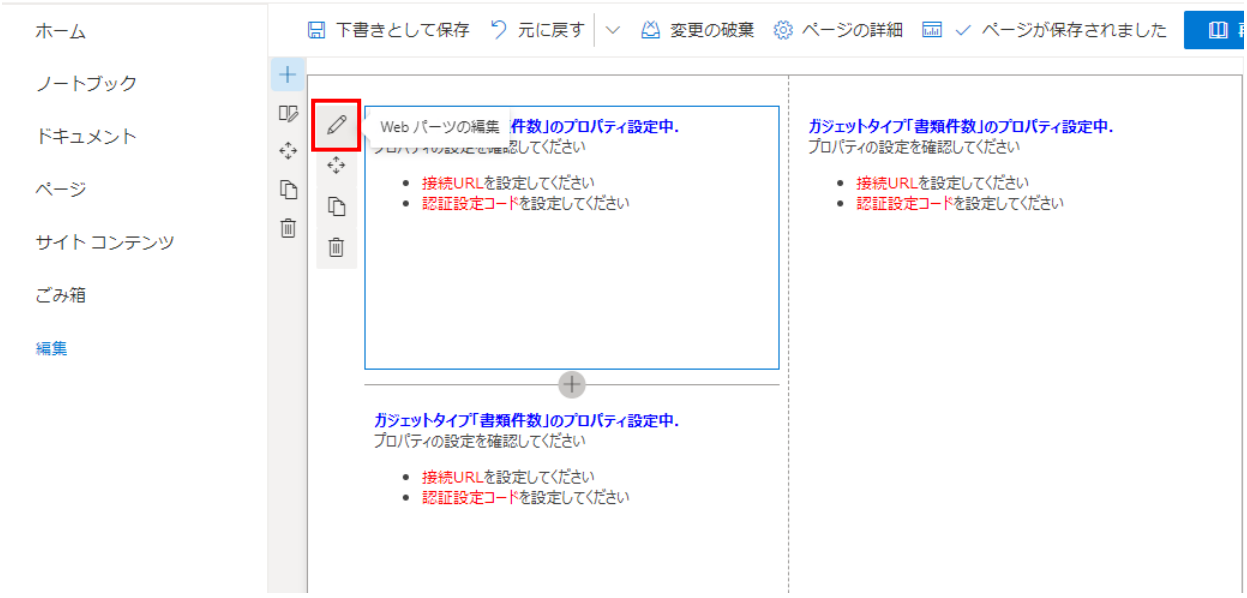
8. Webパーツの設定と動作確認

8.1. Web パーツのプロパティ設定

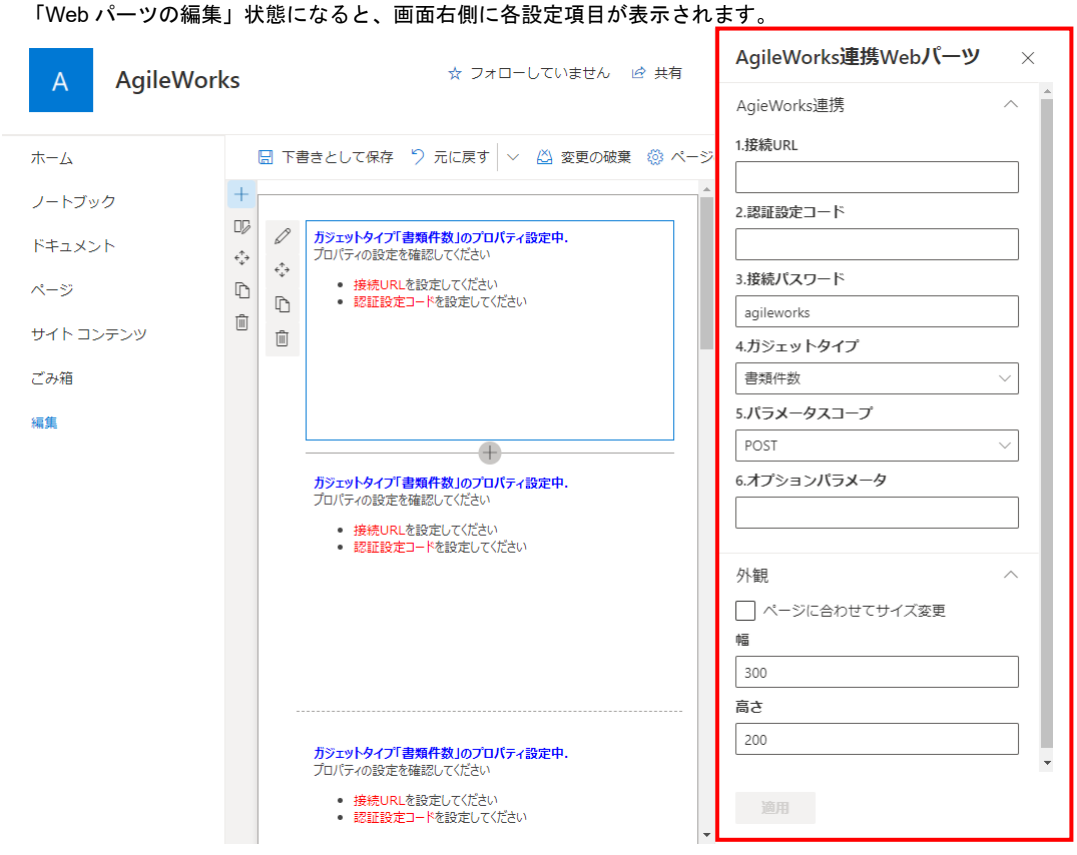
サイトに配置した Web パーツに連携情報を設定します。

1） 設定を行う Web パーツの編集ボタンから設定画面を表示します。

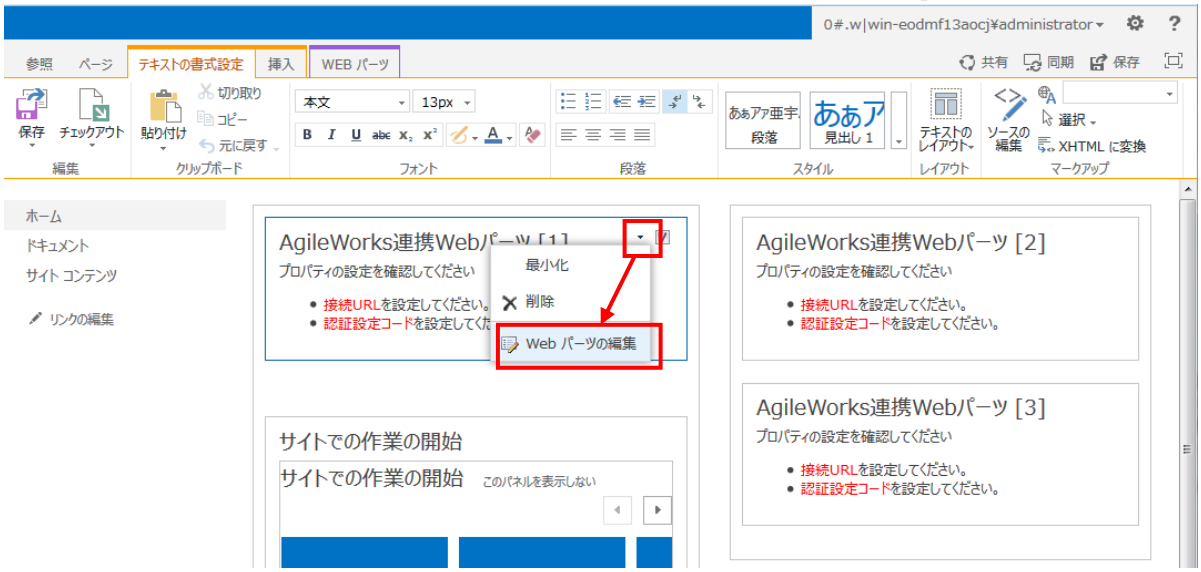
▼サイトが「チームサイト（Microsoft 365 グループなし）」（モダン表示）の場合
対象 Web パーツを選択すると表示される左上のアイコンが「Web パーツの編集」ボタンです。



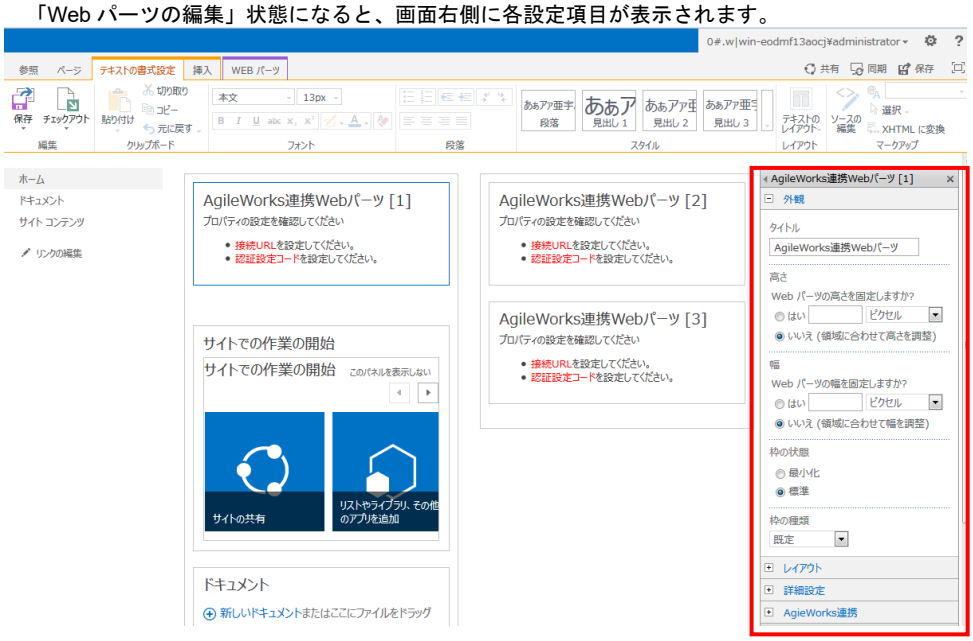
「Web パーツの編集」状態になると、画面右側に各設定項目が表示されます。



▼「チームサイト（クラシック表示）」の場合
対象 Web パーツにマウスカーソルを置くと、表示される▼をクリックし「Web パーツの編集」を選択します。



「Web パーツの編集」状態になると、画面右側に各設定項目が表示されます。



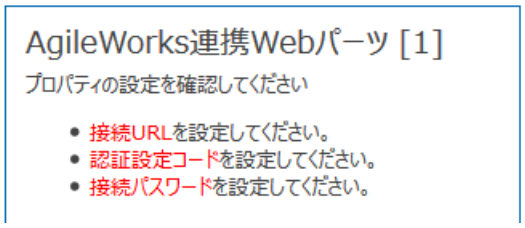
２） 表示させたプロパティに必要項目を設定します。
設定は「外観」、「AgileWorks 連携」の２グループに対して行います。
プロパティ分類名称の左側にある⊞、⊟アイコンをクリックすると設定詳細を表示/編集する事が出来ます。
利用したい Web パーツの種類に沿って設定してください。

▼プロパティの必要設定値

グループ	項目名	設定内容	備考
外観	タイトル	「書類件数」、「書類作成」、「書類一覧」など任意の文字列	表示させる Web パーツの内容に合わせた名称を指定します
	枠の状態	「標準」（推奨）	
レイアウト	方向	「なし」（推奨）	
詳細設定	エクスポートモード	「許可しない」（推奨）	
AgileWorks 連携	接続 URL	https://[AgileWorks サーバ名]/AgileWorks/	連携する AgileWorks の URL を指定します
	認証設定コード	AgileWorks ログイン認証の設定で指定したログイン認証のコード値	
	接続パスワード	AgileWorks ログイン認証の設定で指定したログイン認証の接続パスワード値	
	ガジェットタイプ	「書類件数」、「書類作成」、「書類一覧」のいずれか	表示させる Web パーツの種別を選択します
	パラメータスコープ	「POST」	
	オプションパラメータ	ガジェットタイプ毎に利用可能なパラメータ文字列	パラメータの詳細は、「AwOp01-SSO 設定ガイド」の「ガジェットの利用」に記載されています

「接続 URL」、「認証設定コード」、「接続パスワード」は必須項目です。プロパティの必須項目に指定がない場合、Web パーツの配置場所に不足項目が表示されます。不足項目が表示された場合は、必要な値を指定してください。

【プロパティ未指定のエラー例】



※　表示される内容は、不足項目の数により増減します。

8.2. 表示の確認とブラウザの設定

Web パーツを配置した SharePoint サイトを表示し、設定内容の確認を行います。
確認結果により必要に応じて個々のブラウザに対する設定を追加で行います。

【確認項目】

① 配置した Web パーツが指定通りに表示される。
② 書類作成 Web パーツから、書類名をクリックしてフォーム表示が出来る。
③ 書類件数 Web パーツの【承認依頼】をクリックすると、AgileWorks の承認依頼画面に遷移する。
④ 書類一覧 Web パーツの【検索へ】をクリックすると、AgileWorks の検索画面に遷移する。

【設定後の表示例】



※ Web パーツの周りに枠を表示する場合は、Web パーツの編集で設定プロパティの“外観”にある“枠の種類”で指定を行ないます。設定の詳細については SharePoint の設定マニュアルを参照してください。

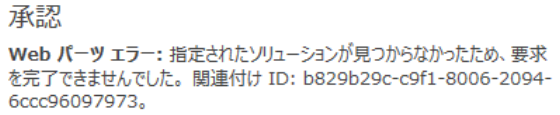
連携動作の確認時に発生する可能性がある代表的なエラーを表にまとめます。
AgileWorks 自体の動作は正常な状態であり、ユーザーID も単独での利用が可能な状態を前提にします。

発生エラー	対　応
ブラウザの Web パーツを指定した箇所に 「プロパティ設定を確認してください」と表示される	SharePoint で Web パーツのプロパティ設定に誤りがあります。指定内容を確認してください。
ブラウザの Web パーツを指定した箇所に 「BRKCMN-W0003：メッセージ:同じブラウザでサイトを 切り替えることはできません」 と表示される。	同じブラウザで AgileWorks の管理サイトにログインしています。 AgileWorks の管理サイトをログアウト、もしくは新規セッションでブラウザを開始してください。
ブラウザの Web パーツを指定した箇所に 「このページは表示できません」、 「接続がタイムアウトしました」 等が表示される。	接続 URL に誤りがあります。
ブラウザの Web パーツを指定した箇所に 「BRKCMN-W0009：メッセージ: ログイン認証が無効に なっています。管理者に問い合わせ下さい。」 が表示される。	AgileWorks に登録した SharePoint 認証設定のコードと、SharePoint の Web パーツで指定した”認証設定コード“が一致するか確認してください。 誤ってユーザサイト設定の認証コードを指定した場合も同様の表示になります。
ブラウザの Web パーツを指定した箇所に 「GGTCMN-E0001：メッセージ: 認証に失敗したため ガジェットを表示できません。 説明: ログイン認証設定に問題があるか、ユーザー 情報が同期されていない可能性があります。」 と表示された。	複数の要因が有ります。 ・ユーザー情報の引当に失敗した 一致するものが無い、一致するものが複数あるなど。 ・接続パスワードに誤りが有ります。 ・サーバー時刻にずれが生じています。
ガジェットをクリックすると AgileWorks の所定機能に遷移せず、ログイン画面に遷移する（IE の場合）	使用ブラウザのオプション設定で「信頼済みサイト」に、SharePoint サーバーと AgileWorks サーバーを登録する。

9. Webパーツのアップデート

AgileWorks のバージョンアップ、Web パーツの修正リリースが行われた場合、SharePoint に登録されている Web パーツのアプリもしくはソリューションパッケージをアップデートします。
アップデート中は SharePoint に Web パーツの表示が出来なくなる為、Web パーツを利用する箇所にエラーが表示されます。作業を行う際は、予め SharePoint 利用者に対し AgileWorks との連携機能が利用できない事を周知するようにしてください。

【作業中に表示されるエラーの例】



Microsoft 365／SharePoint Online を利用している場合は、アプリのアップデートを行ってください。
SharePoint Server／Foundation を利用している場合は、ソリューションパッケージのアップデートを行ってください。

9.1. アプリのアップデート

アプリの更新

1） アプリ一覧の表示

SharePoint 用のアプリ一覧を表示します。
【SharePoint 管理センター】を表示し【その他の機能】→【アプリ】を実行します。
【SharePoint 用アプリ】から「AgileWorks_SharePoint_Linked_Apps」を確認します。

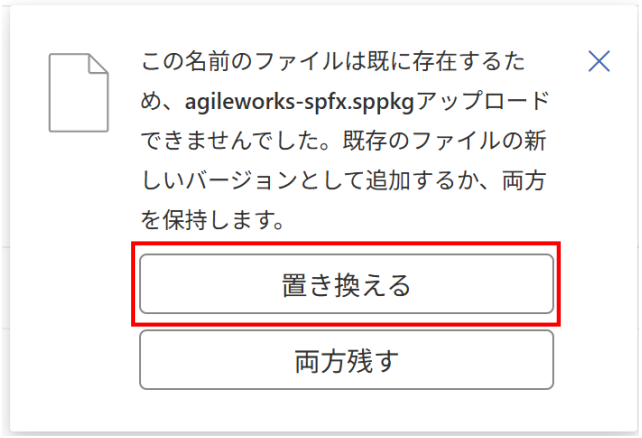


※ 登録済みのアプリを探す作業は必須ではありません。
新しいアプリをアップロードする際に、同一名のアプリファイルが存在すると登録済みである事を示すダイアログが表示されるため、ダイアログ表示の有無で確認することもできます。

2） 更新用の新しいアプリファイル「agileworks-spfx.sppkg」をアップロードします。



アップロードを実行するとファイル更新の確認ダイアログが表示されます。ダイアログの【置き換える】をクリックします。



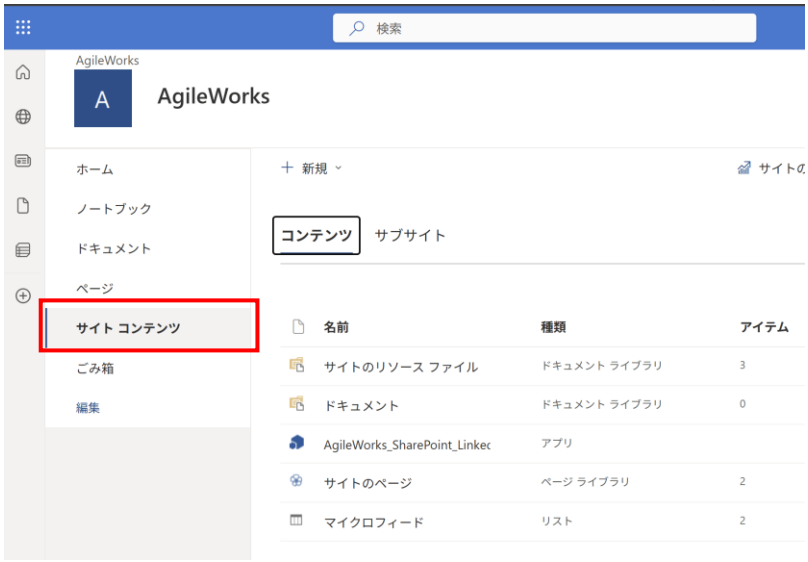
アプリのバージョン番号が変更されていることを確認してください。バージョン番号が変わっていない場合、登録されているアプリの更新ができません。



※ アップデート中、アプリを利用している Web パーツの位置にエラーが表示されます。

サイトコンテンツの更新

1） Web パーツを配置している SharePoint サイトのサイトコンテンツを表示します。



2） アプリ名にカーソルを合わせてメニューを開き「詳細」を表示し、「取得」を押下します。



※ 【取得】ボタンが表示されない場合は、既にアップデートが完了しているサイトです。アップデート前の状態で表示されない場合は、アプリ カタログに新しいアプリが未登録、もしくは登録処理が完了していない状態です。

※ Microsoft 365 では画面操作が終わっていてもサーバー側の処理が完了していない場合があります。

3） アプリの更新完了を確認し、Web パーツの表示を確認します。

アプリの更新処理中はアプリ名がグレーアウトされた状態になります。

グレーアウト中は Web パーツの表示でエラーが発生します。



アプリの更新が完了後に画面更新を行うとアプリ名が通常表示になります。



サイトの表示を行い、Web パーツが表示されることを確認します。



※ アプリのバージョンアップ内容によっては、各 Web パーツの再設定が必要になる場合があります。
その場合、表示の確認において指定パラメータの不足などによりエラーが発生する可能性がありますので御注意願います。

9.2. ソリューションパッケージのアップデート

ソリューションの非アクティブ化

1）「サイト設定」画面を表示します。



2）「サイト設定」画面の「Web デザイナー ギャラリー」内の「ソリューション」を実行します。



※　「Web デザイン ギャラリー」に「ソリューション」が表示されない場合は、サブサイトの設定画面が表示されています。「サイト コレクションの管理」の「トップ レベルのサイト設定に移動」をクリックし、トップレベルのサイト設定に移動してください。

※　「ソリューション」の更新作業を行うユーザーは「フルコントロール」権限を持つ必要があります。

3）ソリューション一覧で「AgileWorksWebParts.wsp」を非アクティブ化します。

「AgileWorksWebParts.wsp」の上にマウスカーソルを合わせると右側に▼が表示されます。▼をクリックし【非アクティブ化】を実行します。

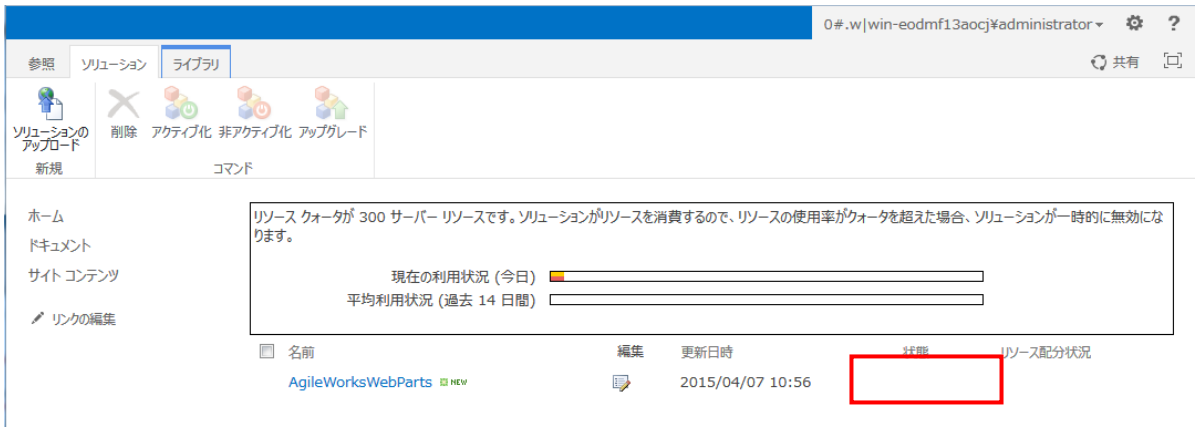


【非アクティブ化】を実行すると確認ダイアログが表示されます。ダイアログで【非アクティブ化】のアイコンをクリックします。



4）アクティブでなくなった事を確認します。

非アクティブ化に成功するとソリューション一覧の「状態」列が空欄になります。

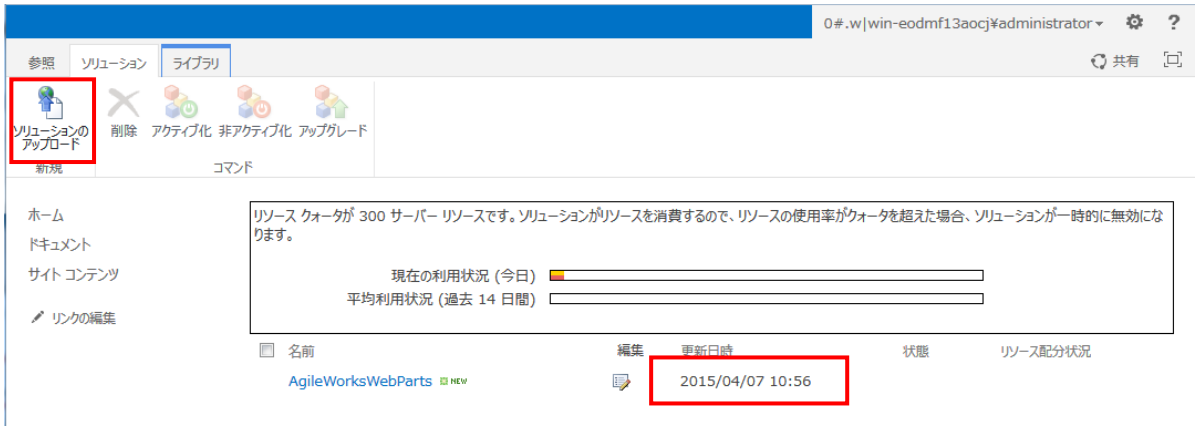


ソリューションの更新と再アクティブ化

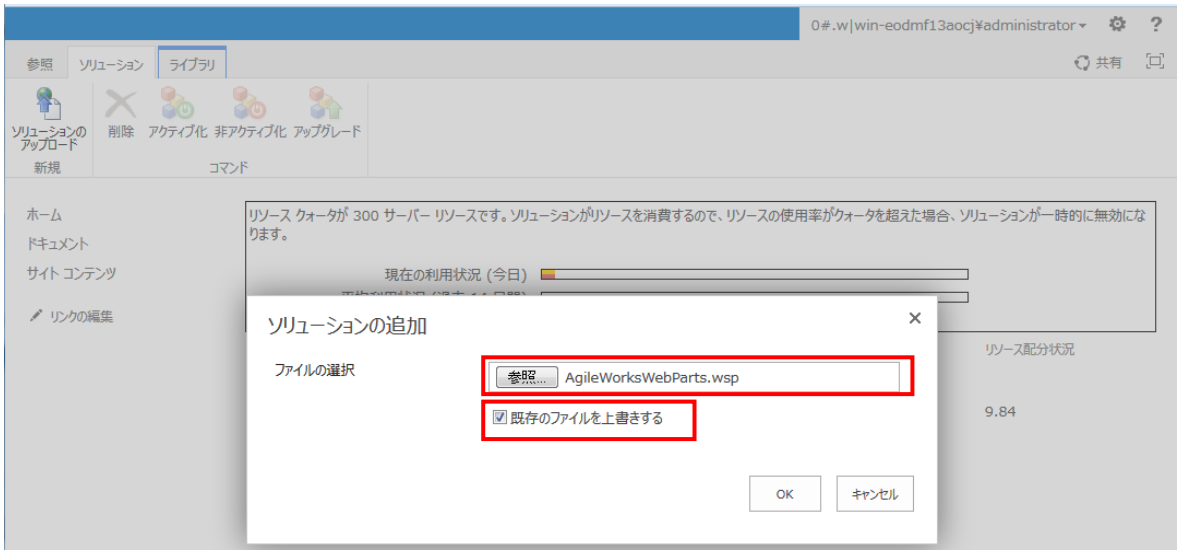
ソリューションの非アクティブ化が完了したのち、ソリューションパッケージのアップデートを開始します。

1）新しいソリューションパッケージを開始します。

ソリューションパッケージの更新を確認する項目が無いため、作業開始前に「更新日時」を記録しておきます。
「更新日時」の記録を済ませたら、リボンメニューより【ソリューションのアップロード】を実行します。

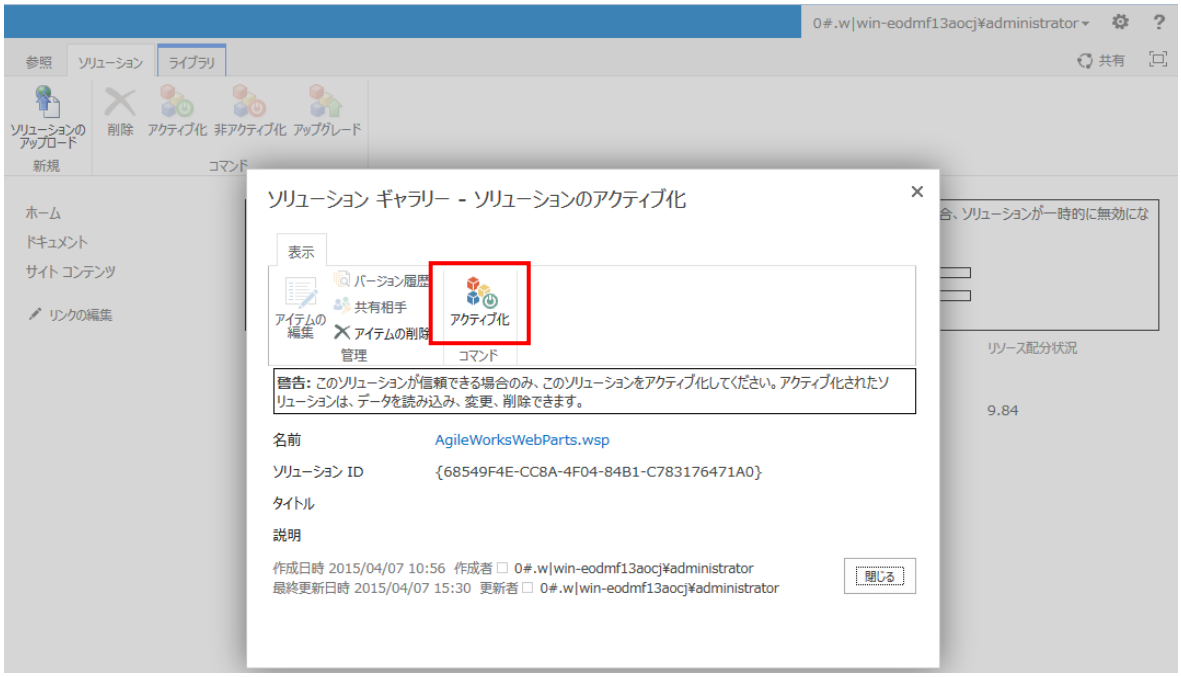


2）「ソリューションの追加」ダイアログで新しいソリューションパッケージを指定します。



※　「既存のファイルを上書きする」を必ずチェックします。

追加が完了すると「ソリューションのアクティブ化」ダイアログに切り替わります。【アクティブ化】を実行し完了します。

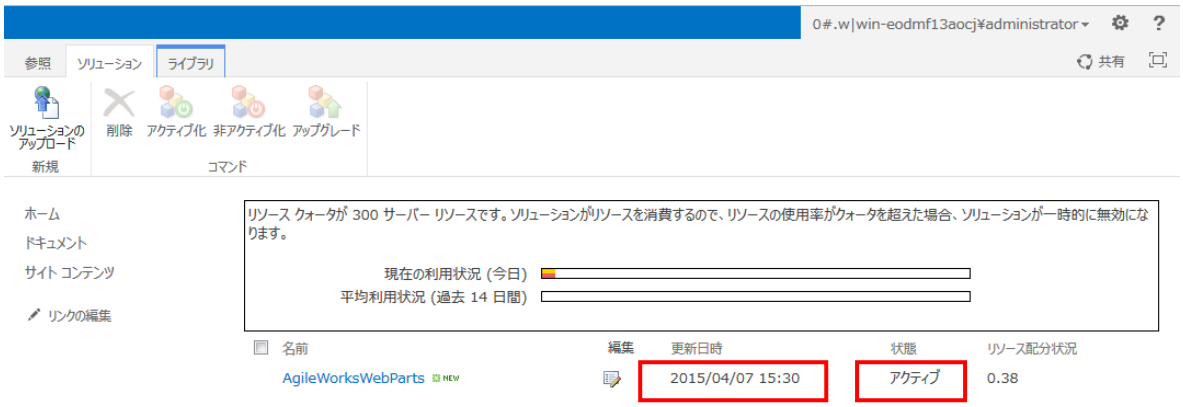


ソリューションの更新に失敗するとエラー ダイアログが表示されます。表示されるエラー内容に従って問題を解決してください。



※ 本エラー例はソリューションの更新前に、ソリューションを“非アクティブ化”していない場合に発生するエラーです。
作業時にエラーが発生した場合は、SharePoint のマニュアルを参考に問題を解決してください。

アップデート完了後、ソリューション一覧にて「更新日時」が更新を行った日時になっている事、「状態」が【アクティブ】になっている事を確認してください。



※　ソリューションの更新では「Web パーツ ギャラリー」に登録されている AgileWorks 連携用 Web パーツの設定内容は更新前のままになります。このため、Web パーツのアップデート作業手順に「Web パーツ ギャラリー」の内容変更が必要となる場合があります。修正が必要になる場合は、アップデータと共に提供されるアップデートガイドに従って作業を行ってください。

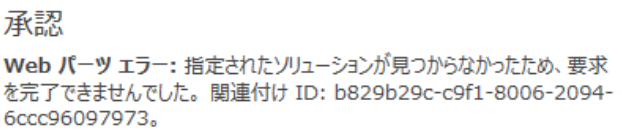
9.3. 更新の確認

アプリもしくはソリューションパッケージの更新後、Web パーツの設定を修正する必要はありません。連携用 Web パーツを使用するサイトを表示し Web パーツが表示される事を確認します。

アップデートの際に Web パーツに新しい設定項目が追加されることがあるため、アップデート用のソリューションパッケージと共に提供される手順書を確認してください。

Web パーツが表示されず「Web パーツエラー」が表示される場合、原因としてソリューションがアクティブ化されていない事などが考えられます。エラーが表示された場合は「ソリューション ギャラリー」でアクティブ化を行ってください。

【エラー表示の例】



ソリューションがアクティブ化されている状態で「Web パーツエラー」が発生した場合、ソリューションの更新時に SharePoint 内で何らかの問題が発生したことが考えられます。
その場合、お手数ですが Web パーツを利用するサイトを編集し Web パーツの再設定、もしくは連携用 Web パーツの再設置を行ってください。

10. 応用設定

10.1. 既定のログインを停止する

SharePoint からの連携を有効にした場合に、AgileWorks ユーザーサイトの標準ログイン画面（既定のログイン）を利用せず、SharePoint からのログインを基本操作とし AgileWorks の機能は SharePoint から遷移して利用する運用を行なう場合、AgileWorks ユーザーサイトからのログインを禁止する事ができます。

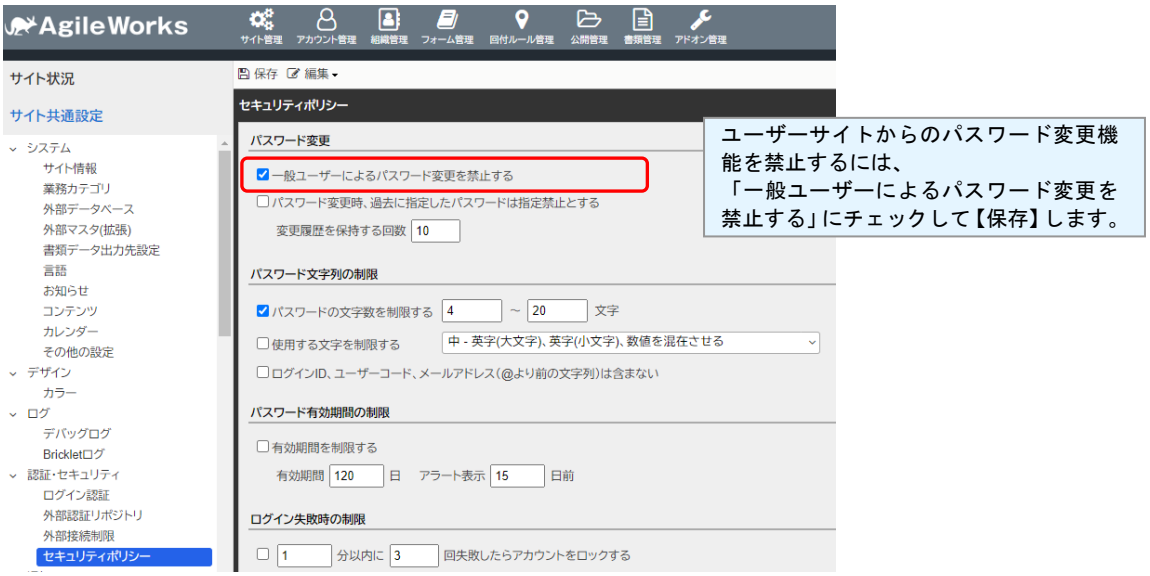
1. 既定のログインを停止する

▼ AgileWorks 管理サイト【サイト管理】-【サイト共通設定】-【認証・セキュリティ】-【ログイン認証】



2. 一般ユーザーによるパスワード変更を禁止する

▼ AgileWorks 管理サイト【サイト管理】-【サイト共通設定】-【認証・セキュリティ】-【セキュリティポリシー】



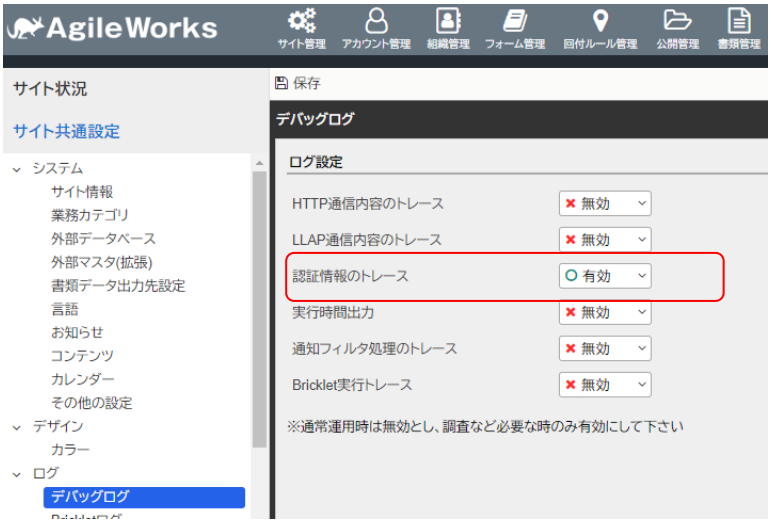
11. トラブルシューティング

11.1. 認証情報のトレース

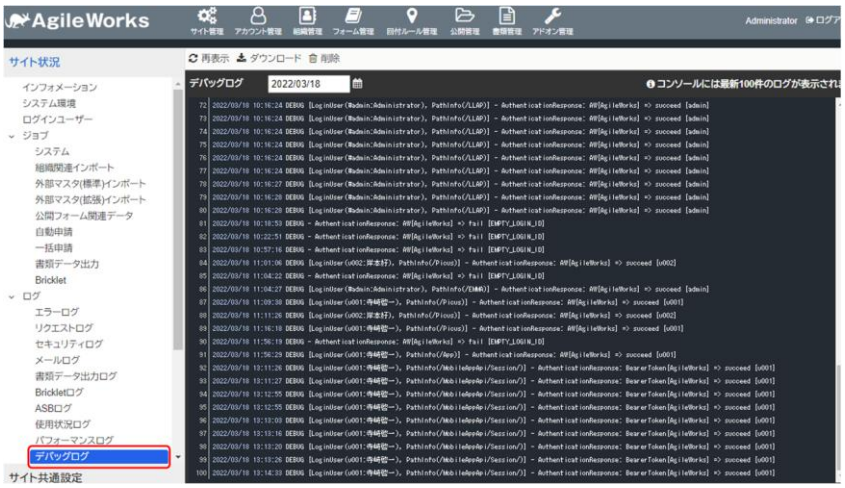
認証に失敗する場合は、AgileWorks 側のデバッグログ「認証情報のトレース」を有効にして、どこで失敗しているか切分確認を行います。

※　クラウド環境ではデバッグログの確認操作はできません。

▼ デバッグログ設定
管理サイト【サイト管理】-【サイト共通設定】-【ログ】-【デバッグログ】



▼ デバッグログの確認
管理サイト【サイト管理】-【サイト状況】-【ログ】-【デバッグログ】



注意事項
デバッグログは連携確認時にのみ利用し、確認が終わったら忘れず無効にしてください。
有効状態のまま実運用を行うと、デバッグログの肥大化によるディスク領域の不足や全体的な処理速度低下のリスクがあります。
なお、「SharePoint 連携」を設定した状態で「認証情報のトレース」を有効にすると、AgileWorks の画面にアクセスする度にデバッグログが出力されますが、デバッグ出力時に毎回認証を行っているわけではありません。

認証成功時のデバッグログ

▼ 認証成功時のデバッグログ出力例

```
DEBUG [LoginUser(u010:明間昭子), PathInfo(/GadgetSP.sp_wparts)] - AuthenticationResponse: SharePoint[認証リポジトリコード] => succeed [u010]
```

・ ＜認証リポジトリコード＞部には、AgileWorks 側認証リポジトリコードが出力され、標準では AgileWorks となります。

上記出力例では、ログイン名「u010」が AgileWorks 側に認証成功したことになります。

デバッグログが出力されない

デバッグログを設定したにも関わらず、「SharePoint 連携」に関するデバッグログが出力されていない場合は、SharePoint 側から AgileWorks に対してリクエストが送信されていません。
SharePoint で設定した Web パーツ設定の AgileWorksURL が誤っている可能性があります。

デバッグログに「NOT FOUND」と出力される

▼ デバッグログ出力例

```
DEBUG - AuthenticationResponse: SharePoint[AgileWorks] => fail [NOT_FOUND]
```

ユーザーの引き当てに失敗した場合に出力されるログです。

SharePoint から送信されるユーザー引当情報と一致するユーザーが AgileWorks 側に存在しないか、複数存在しています。
以下の情報を切り分けしてください。

・ 引当情報が一致するユーザーが、AgileWorks 側に存在するか？
・ 引当情報が一致するユーザーが、AgileWorks 側に複数存在していないか？

※ ユーザーコード、ログイン ID 以外で引当している場合は、ユーザーが同時期に複数存在するケースが起こりえます。